

平成30年度  
全国学力・学習状況調査  
恵庭市の調査結果（報告）



平成31年2月  
恵庭市教育委員会





	目 次
---	-----

<b>1</b>	調査の概要	1
<b>2</b>	「教科に関する調査」調査結果	4
	（1）小・中学校各教科平均正答率の状況	4
	（2）教科別調査結果の詳細	6
	① 小学校国語A（主として「知識」に関する問題）	6
	② 小学校国語B（主として「活用」に関する問題）	9
	③ 小学校算数A（主として「知識」に関する問題）	12
	④ 小学校算数B（主として「活用」に関する問題）	15
	⑤ 小学校理科	18
	⑥ 中学校国語A（主として「知識」に関する問題）	21
	⑦ 中学校国語B（主として「活用」に関する問題）	24
	⑧ 中学校数学A（主として「知識」に関する問題）	27
	⑨ 中学校数学B（主として「活用」に関する問題）	30
	⑩ 中学校理科	33
<b>3</b>	「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果	36
	（1）小学校児童質問紙調査結果の概要	36
	（2）中学校生徒質問紙調査結果の概要	38
	（3）児童・生徒質問紙の回答状況と学力のクロス集計（基準別集計）結果	40
	（4）児童・生徒質問紙及び学校質問紙調査の主な回答結果データ	42
<b>4</b>	総評	45

# 1 調査の概要

## (1) 調査の目的

全国学力・学習状況調査は、以下①・②の取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として実施されています。

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## (2) 調査の対象

- ・ 小学校6年生、義務教育学校前期課程6年生、特別支援学校小学部6年生
  - ・ 中学校3年生、義務教育学校後期課程3年生、中等教育学校3年生、特別支援学校中学部3年生
- ※ いずれの学年においても、全ての児童・生徒が対象です。

## (3) 調査の方式

全国学力・学習状況調査の方式は「**悉皆（しっかい）調査**」です。

悉皆調査は「**全数調査**」などともいわれ、集まったデータ全てをもれなく分析する調査のことです。（反対に、集まったデータの一部を抜き出して分析する調査は「**標本調査**」などといわれます。）

## (4) 調査の内容

### ① 教科に関する調査（テスト）

平成30年度は、国語「A（主として「知識」に関する問題）」「B（主として「活用」に関する問題）」、算数（小学6年生）又は数学（中学3年生）「A」「B」に加え、理科のテストが行われました。

A（主として「知識」に関する問題）	B（主として「活用」に関する問題）
・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

## ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（アンケート）

児童・生徒一人ひとりを対象とした調査と、各小・中学校を対象とした調査の2種類が行われました。

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### （5）調査実施日

平成30年4月17日（火）

### （6）調査を受けた児童・生徒数

単位 (人)	小学校6年生					中学校3年生				
	国語		算数		理科	国語		数学		理科
	A	B	A	B		A	B	A	B	
恵庭	636	636	636	636	636	650	651	651	651	651
全道	39,610	39,599	39,610	39,603	39,617	39,656	39,654	39,665	39,671	39,683
全国	1,030,025	1,029,799	1,030,013	1,029,847	1,029,828	966,764	966,786	966,969	966,908	967,188

※当日の参加人数。 ※全道は公立学校分のみ。全国は公立・国立・私立学校の計。

### （7）調査の解釈にあたって留意いただきたいこと

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的に実施していますが、調査した教科は3教科のみであり、設問の内容も学習内容全てを網羅しているとは限りません。

したがって、調査の結果から分かるのは、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分や、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに十分ご留意ください。

### （8）調査結果の掲載方法

「教科に関する調査」（テスト）の結果については、次のような方法で表示しています。

#### ①教科ごとの平均正答率（％）

全道・全国平均正答率との比較として、「記号」や「文言」で表します。

全国・全道平均との比較（ポイント差）	記号	文言
+5.0 以上	△	上回る
+2.0～+4.9	◇	やや上回る
-1.9～+1.9	≡	ほぼ同程度
-2.0～-4.9	◆	やや下回る
-5.0 以下	▼	下回る

恵庭市における「教科に関する調査」の実際の平均正答率数値については、他市町村等との単純比較や序列化などに結びつき、調査の目的を損ないかねないとの考えから、公表していません。

同様の理由により、市内小・中学校ごとの結果数値についても公表していません。

## ②教科の具体的な領域や設問ごとの（平均）正答率（％）

①のような全道・全国平均との比較形式のほか、市の（平均）正答率についても「記号」や「文言」で表します。

市の（平均）正答率	記号	文言
80%以上	◎	相当できている ↑ ↓ 課題がある
60%～79%	○	
50%～59%	●	
49%以下	・	

（※教科の領域ごとの結果では「平均正答率」、個々の設問の結果では「正答率」を表します。）

「教科に関する調査」（テスト）の結果と異なり、「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」（アンケート）の結果については、恵庭市の回答率をそのまま表示しています。

## （9）調査問題・質問内容および国・北海道の調査結果報告書について

調査問題とその正答例、解説資料及び質問紙調査の内容については、文部科学省の所管する国立教育政策研究所のウェブサイトの下記のアドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

・平成30年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について  
⇒ <http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm>

また、国（文部科学省・国立教育政策研究所）としての調査結果報告書についても、同様にダウンロードすることができます。

・調査結果報告書（国） ⇒ <http://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/index.html>

北海道教育委員会としての調査結果報告書については、下記アドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

・調査結果報告書（北海道）  
⇒ [http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/gakuryoku30/kanren\\_data.htm](http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/gakuryoku30/kanren_data.htm)

（※上記に記載したウェブサイトのアドレスは、いずれも平成31年2月現在のものです。）



## 2 「教科に関する調査」調査結果

### (1) 小・中学校各教科平均正答率の状況

- 平成30年度の恵庭市平均正答率について、小学校6年生の算数A、中学校3年生の数学Bは全道平均をやや上回り、中学校3年生の理科は全道・全国平均をやや上回った。一方で、小学校6年生の算数Bは全国平均をやや下回った。
- そのほかポイント差はほぼ同程度であるが、小学校6年生は、国語Aで全国・全道平均を、国語Bで全道平均を、算数Aで全国平均を、理科で全道平均をわずかに上回った。中学校3年生は、国語Bで全国・全道平均を、数学Aで全道平均を、数学Bで全国平均をわずかに上回った。
- 平成26年度以降、全国平均との差が±5ポイント以内と大きな差が見られない状況が続いている。

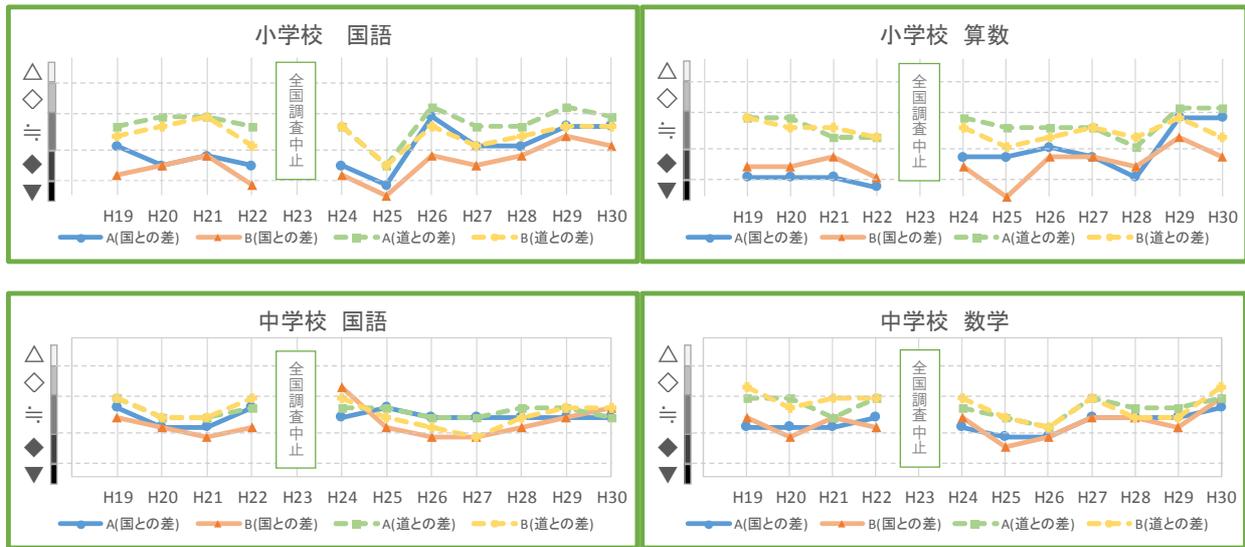
\*平成30年度 恵庭市小・中学校の各教科別平均正答率

		平均正答率									
		小学校6年生					中学校3年生				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
H30 (今回)	恵庭市 (国と比較)	≒	≒	≒	◆	≒	≒	≒	≒	≒	◇
	全国平均 (公立)	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%	60.3%	76.1%	61.2%	66.1%	46.9%	66.1%
	恵庭市 (道と比較)	≒	≒	◇	≒	≒	≒	≒	≒	◇	◇
	全道平均 (公立)	70.1%	52.7%	62.2%	48.7%	58.8%	76.6%	61.2%	64.9%	45.8%	66.7%
	正答率の 位置	道<国<≒	道<≒<国	道<国<≒	≒<道<国	道<≒<国	≒<国<道	道<国<≒	道<≒<国	道<国<≒	国<道<≒
H29 (前回) ※理科は H27	恵庭市 (国と比較)	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
	恵庭市 (道と比較)	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
	正答率の 位置	≒<道<国	≒<道<国	≒<道<国	≒<道<国	≒<道<国	≒<道<国	≒<道<国	≒<道<国	≒<道<国	国<道<≒

記号の意味 比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

\* 調査開始（平成19年度）以降の平均正答率（全国・全道との比較）推移

【ポイント差を表す記号の変化のグラフ】



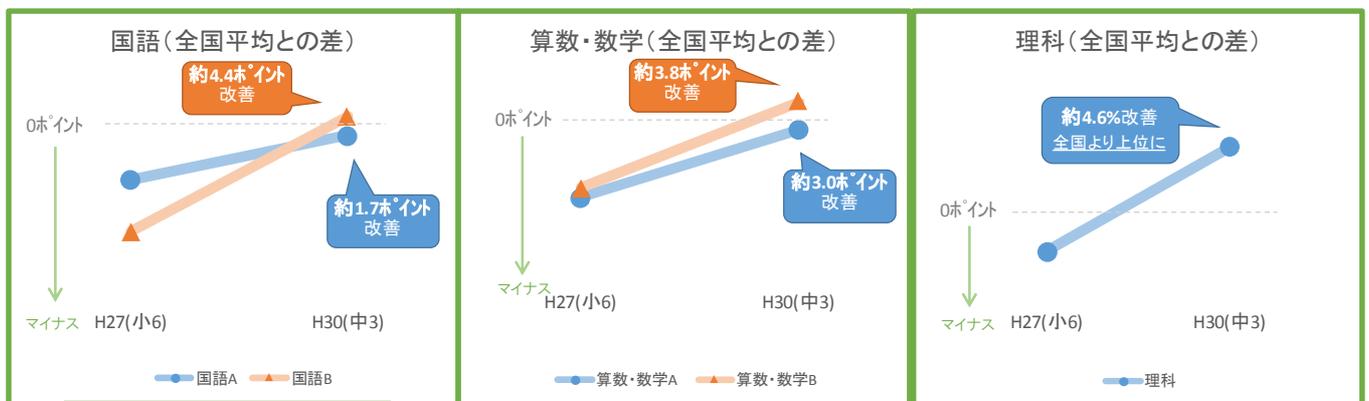
※全国・全道とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度における**おおよその傾向**を示したグラフである。

記号の意味 比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

・平成23年度の調査は、東日本大震災の影響等を考慮し国としては実施を中止した（希望校のみの参考実施となり、恵庭市では全ての小・中学校が参加）ため、全国の結果（平均正答率など）が示されていません。

・平成22年度及び平成24年度の調査は、統計的な基準で選ばれた学校を対象とする「抽出調査」方式で実施されたため、他の年度と異なり、全国の結果（平均正答率など）に全ての学校の結果が反映されていません。（希望校も任意に実施できる形式であり、恵庭市では全ての小・中学校が参加して調査結果の提供を受けていますので、恵庭市の結果については市内全学校の結果に基づいています。）

\* 同一世代の平均正答率の変化（平成27年度の小学6年生→平成30年度の中学3年生）



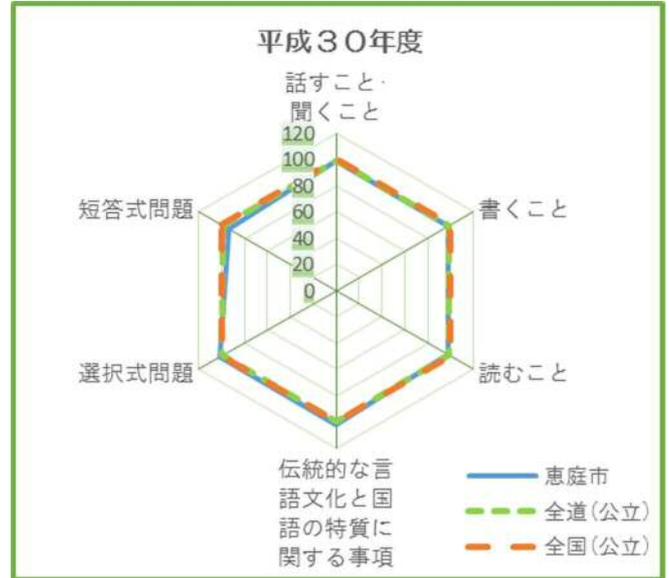
(2) 教科別調査結果の詳細

① 小学校 国語A (主として「知識」に関する問題)

解答時間20分・設問数12問

- 各領域等の平均正答率は、「短答式問題」が全国をやや下回った。その他の分野については、全国・全道と同程度である。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、前年度より0.6ポイント程度下がったが、全国より2.1ポイント低い。
- 設問別結果のうち、漢字の読み書きについては、2問は正答率が全国よりやや上回り、1問は正答率が全国を上回った一方で、正答率が全国をやや下回った問題が1問見られた。
- 全体として解答率は高く、無解答率が10パーセントを下回った問題はなかった。

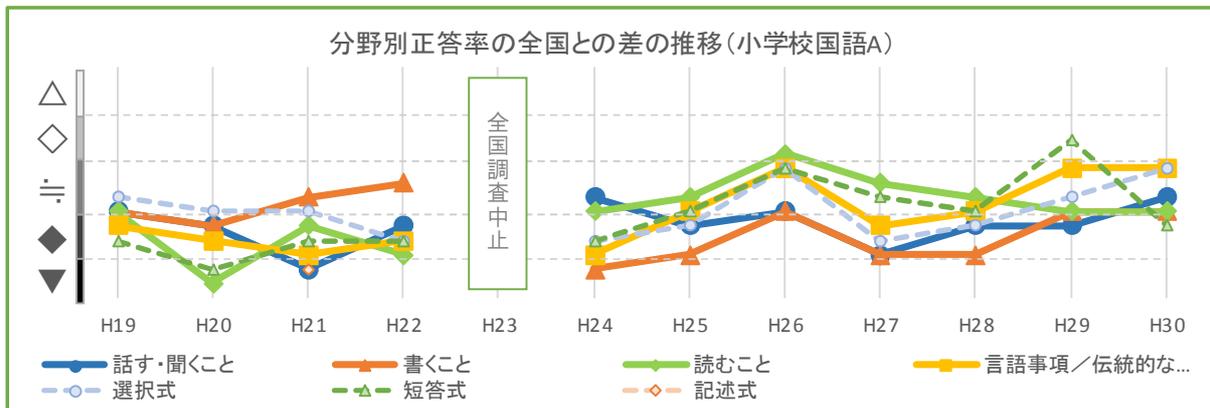
\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



\*小学校国語A 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

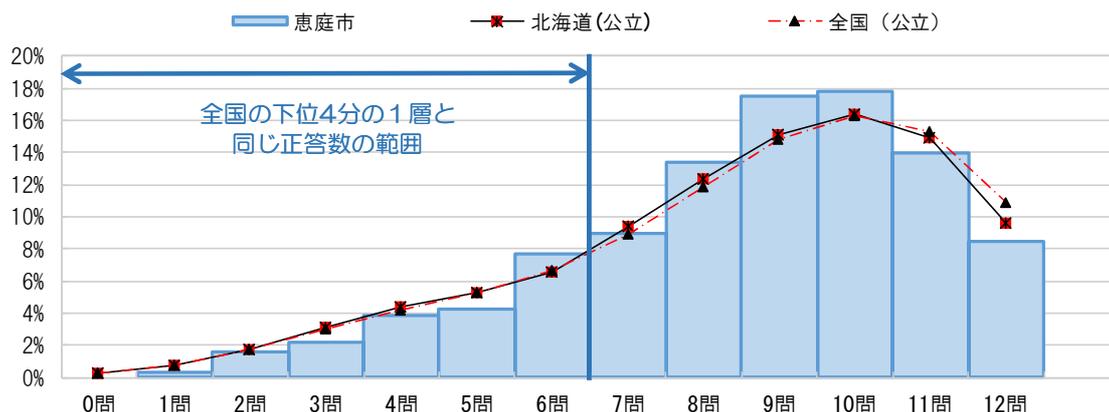
		領域別正答率				問題形式別正答率			
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化 と国語の特質に 関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題	
H30 (今回)	恵庭市	◎	○	○	○	○	・	本形式の問題なし	
	国と比較	≒	≒	≒	≒	≒	◆		
	全国(公立)	90.8%	73.8%	74.0%	67.0%	73.9%	35.5%		
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒		
全道(公立)	90.3%	72.9%	72.5%	66.6%	73.3%	34.9%			
H29 (前回)	国と比較	◆	◆	≒	≒	≒	◇		
道と比較	◆	≒	≒	◇	≒	◇			

記号の意味 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
 比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。  
 ※「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」はH23まで「言語事項」。

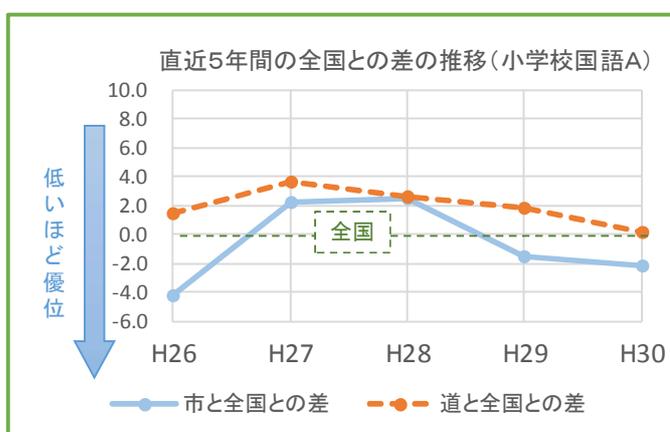
\*平成30年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H30 (今回)	恵庭市 (前回比)	19.9% (-0.9)	-2.1 (-0.6)
	全国 (前回比)	22.0% (-0.3)	
	全道 (前回比)	22.2% (-1.9)	0.2 (-1.6)
H29 (前回)	恵庭市	20.8%	-1.5
	全国	22.3%	
	全道	24.1%	1.8

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

\*恵庭市における設問別結果の概要

全12問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	3問	話すこと・聞くこと	0 / 1問	選択式問題	3 / 11問
		書くこと	0 / 1問	短答式問題	0 / 1問
		読むこと	0 / 2問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	3 / 8問		
全国の正答率を 3ポイント以下下回った設問	1問	話すこと・聞くこと	0 / 1問	選択式問題	1 / 9問
		書くこと	0 / 1問	短答式問題	0 / 6問
		読むこと	0 / 2問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	1 / 8問		
無解答率が 10%以上の設問	なし				

【無解答率とは】

児童・生徒が問題に取り組むのを断念し、何も解答しなかった割合です。その問題がねらいとしている内容を考えたり、書いたりすること自体を「難しい」「手に負えない」と感じていることが表れています。したがって、無解答率の高い問題では、解き方や考え方の習熟に課題があり、指導にいつもの丁寧さや工夫が求められるといえます。

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問</b>									
8ア	文の中で漢字を使う(せい造)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	○	73.4%	◇	73.9%	◇
					無解答率とその比較	3.3%	5.2%	-1.9	4.9%
8イ	文の中で漢字を使う(せつ備)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	◎	82.2%	△	83.3%	◇
					無解答率とその比較	3.8%	6.3%	-2.5	6.0%
8ウ	文の中で漢字を使う(しょう毒)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	◎	82.2%	◇	82.4%	◇
					無解答率とその比較	3.6%	6.6%	-3.0	6.3%
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問</b>									
8オ	文の中で漢字を使う(せつ極的)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	▪	51.4%	◆	50.1%	◆
					無解答率とその比較	4.1%	7.7%	-3.6	7.5%

記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

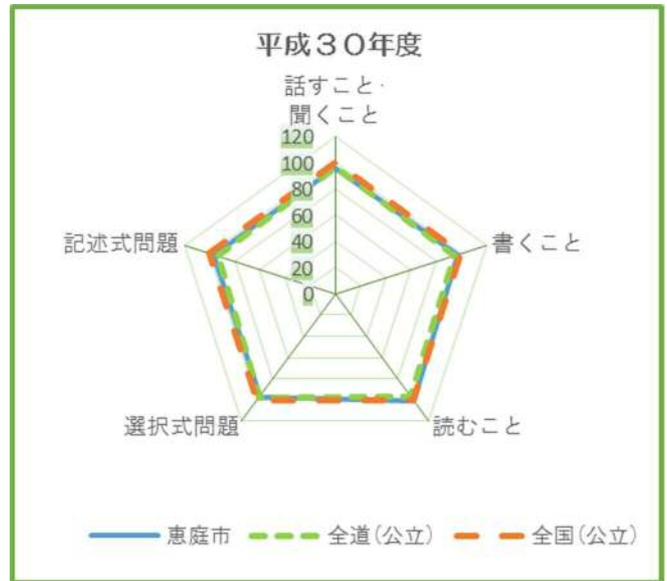


② 小学校 国語 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間40分・設問数8問

- 各領域等の平均正答率は、全国と比較して、「話すこと・聞くこと」「選択式問題」で全国をやや下回っているが、その他の領域等では全国とほぼ同程度である。また、全道と比較すると、全ての領域でほぼ同程度である。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、前年度より2ポイント下がり、全国より0.1ポイント低い。
- 話し合いの参加者として質問の意図を捉える問題や、目的や意図に応じて自分の考えを書くなどの問題に課題が見られる。
- 記述式の問題のうち、1問が全国平均正答率を下回り、1問は無解答率が10パーセントを上回ったことから、主体的な判断を伴う記述式問題に課題が見られる。
- 全国平均正答率を3ポイント以上上回る設問はなかった。

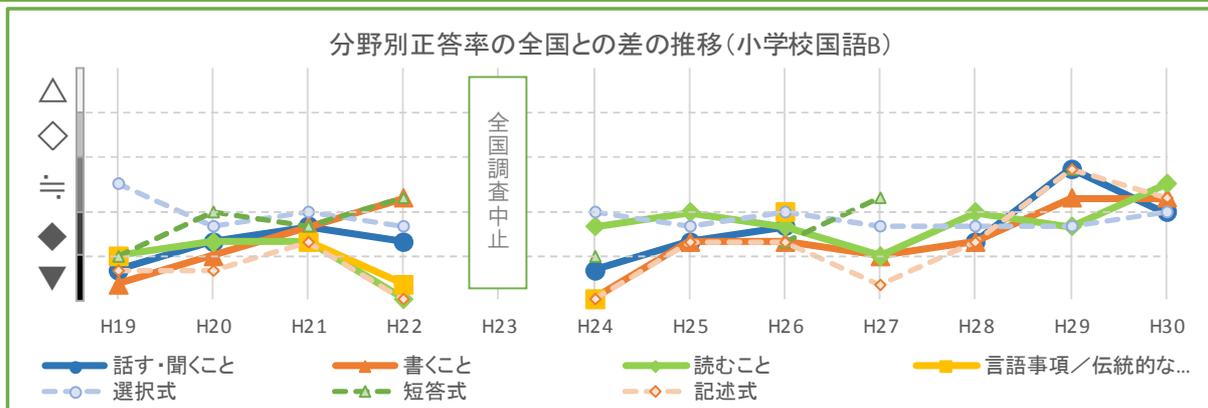
\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



\*小学校国語 B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H30 (今回)	恵庭市	○	・	●	本形式の問題なし	○	本形式の問題なし	・
	国と比較	◆	≒	≒		◆		≒
	全国(公立)	64.6%	45.6%	50.8%		67.6%		33.2%
	道と比較	≒	≒	≒		≒		≒
H29 (前回)	全道(公立)	62.0%	43.4%	49.2%	65.9%	30.7%		
	国と比較	≒	≒	◆	◆	≒	≒	
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	

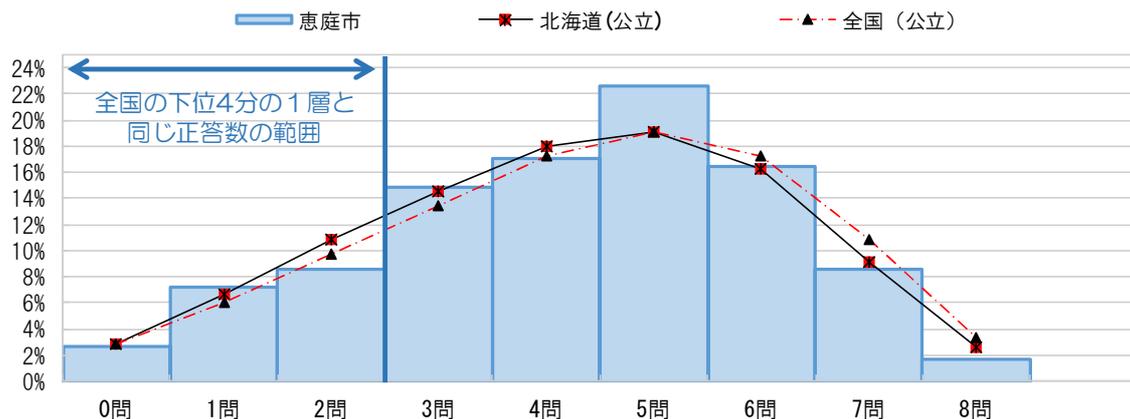
記号の意味 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。

※「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」はH23まで「言語事項」。

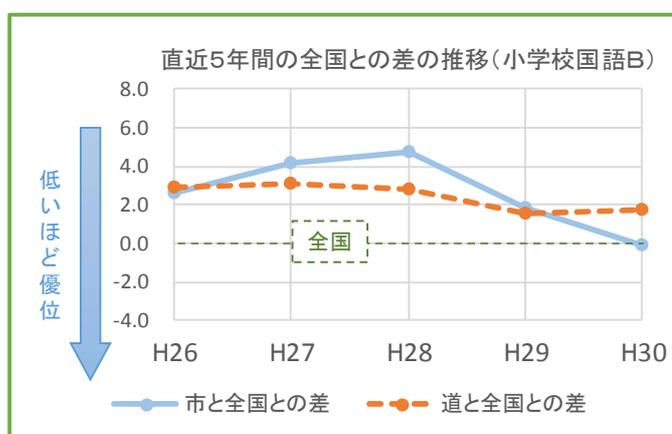
\*平成30年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H30 (今回)	恩庭市 (前回比)	18.5% (-6.6)	-0.1 (-2.0)
	全国 (前回比)	18.6% (-4.6)	
	全道 (前回比)	20.4% (-4.4)	1.8 (+0.2)
H29 (前回)	恩庭市	25.1%	1.9
	全国	23.2%	
	全道	24.8%	1.6

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

\*恩庭市における設問別結果の概要

全8問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	2問	話すこと・聞くこと	1 / 3問	選択式問題	1 / 5問
		書くこと	1 / 5問	短答式問題	0 / 0問
		読むこと	0 / 2問	記述式問題	1 / 3問
		伝統的な言語文化...	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が10%以上の設問	1問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	0 / 5問
		書くこと	1 / 5問	短答式問題	0 / 0問
		読むこと	1 / 2問	記述式問題	1 / 3問
		伝統的な言語文化...	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★ 恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
1ー	【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する	話し合いの参加者として、質問の意図を捉える	話すこと・聞くこと	選択	○	70.8%	▼	68.2%	◆
					無解答率とその比較		0.0%	0.7%	-0.7
2二	【おすすめする文章】の四角に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	書くこと	記述	○	70.9%	◆	68.7%	≡
					無解答率とその比較		3.2%	3.2%	0.0
★ 上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
3二	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】(○)最も心がひかれた一文とその理由の文章の四角に入る内容を書く	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む	書くこと・読むこと	記述	●	52.3%	◇	51.1%	◇
					無解答率とその比較		10.8%	11.9%	-1.1

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る ▼下回る

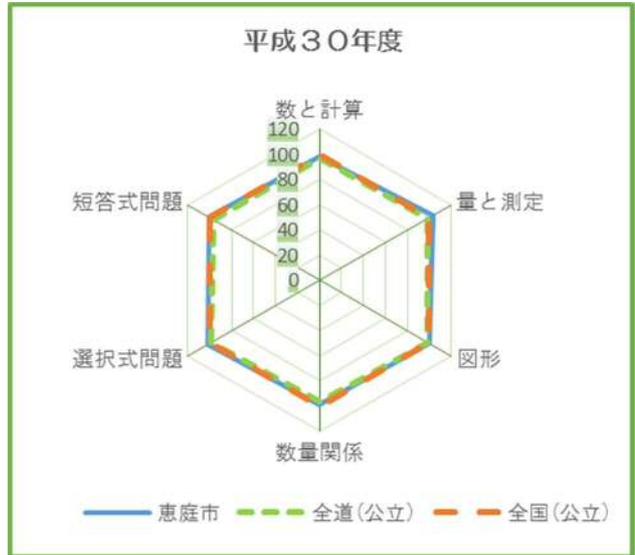


③ 小学校 算数 A (主として「知識」に関する問題)

解答時間20分・設問数14問

\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)

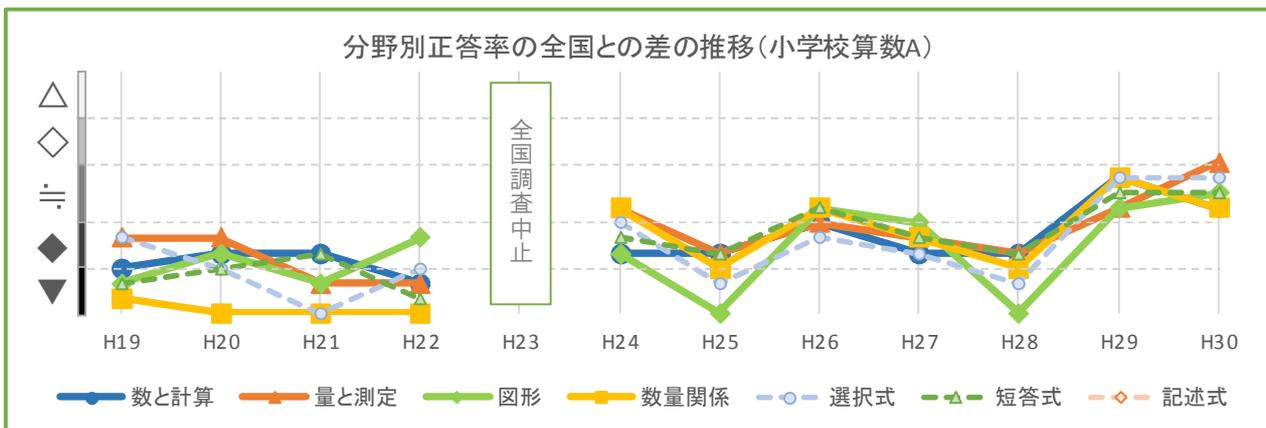
- 各領域等の平均正答率は、「量と測定」が全国・全道の平均正答率をやや上回っている。また、「選択式問題」「短答式問題」が全道をやや上回った。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は前年度から1.7ポイント程度下がり、全国の割合よりも2.7ポイント少ない。
- 無解答率が10パーセントを上回る設問はなかった。



\*小学校算数 A 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

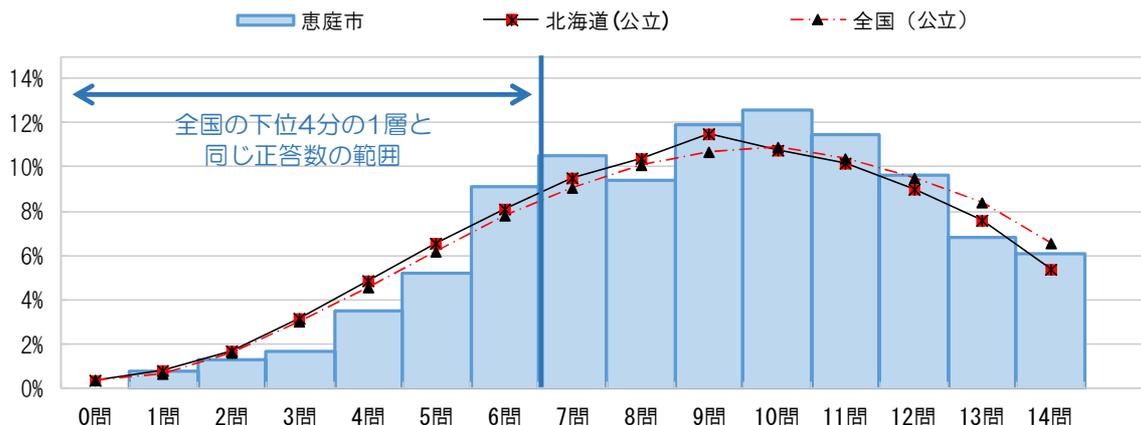
		領域別正答率				問題形式別正答率			本形式の問題なし
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式問題	短答式問題	記述式問題	
H30 (今回)	恵庭市	○	○	●	●	○	○		
	国と比較	≒	◇	≒	≒	≒	≒		
	全国(公立)	62.3%	72.7%	56.9%	60.1%	61.8%	67.8%		
	道と比較	≒	◇	≒	≒	◇	◇		
	全道(公立)	60.0%	71.7%	56.1%	58.2%	60.9%	65.3%		
H29 (前回)	国と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒		
	道と比較	◇	≒	≒	◇	≒	◇		

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	◦49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。

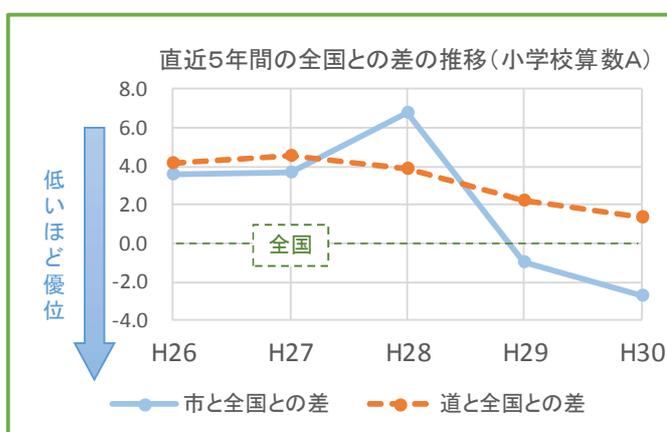
\*平成30年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H30 (今回)	恵庭市 (前回比)	<b>21.6%</b> (-4.7)	<b>-2.7</b> (-1.7)
	全国 (前回比)	<b>24.3%</b> (-3.0)	
	全道 (前回比)	<b>25.7%</b> (-3.8)	<b>1.4</b> (-0.8)
H29 (前回)	恵庭市	<b>26.3%</b>	<b>-1.0</b>
	全国	<b>27.3%</b>	
	全道	<b>29.5%</b>	<b>2.2</b>

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

\*恵庭市における設問別結果の概要

全14問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	4問	数と計算	1 / 5問	選択式問題	3 / 10問
		量と測定	1 / 4問	短答式問題	1 / 4問
		図形	1 / 3問	記述式問題	/ 0問
		数量関係	1 / 5問	※領域の重複する設問がある。	
全国の正答率を 3ポイント以下下回った設問	1問	数と計算	1 / 5問	選択式問題	1 / 10問
		量と測定	0 / 4問	短答式問題	0 / 4問
		図形	0 / 3問	記述式問題	/ 0問
		数量関係	1 / 5問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が 10%以上の設問	なし				

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問</b>									
1 (2)	針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる	数と計算	選択	○	66.7%	△	68.6%	◇
						無解答率とその比較	1.6%	2.4%	-0.8
5 (2)	分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める	180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる	量と測定	短答	○	58.5%	◇	54.3%	△
						無解答率とその比較	0.5%	1.5%	-1.0
7 (1)	円周率を求める式として正しいものを選ぶ	円周率の意味について理解している	図形	選択	■	41.6%	◇	43.2%	◇
						無解答率とその比較	1.4%	3.2%	-1.8
9	示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる	数量関係	短答	○	63.6%	◇	62.7%	◇
						無解答率とその比較	5.0%	7.2%	-2.2
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問</b>									
1 (3)	針金1mの重さを求める式を選ぶ	1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している	式と計算・数量関係	選択	●	65.3%	▼	61.3%	◆
						無解答率とその比較	1.1%	2.2%	-1.1

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る

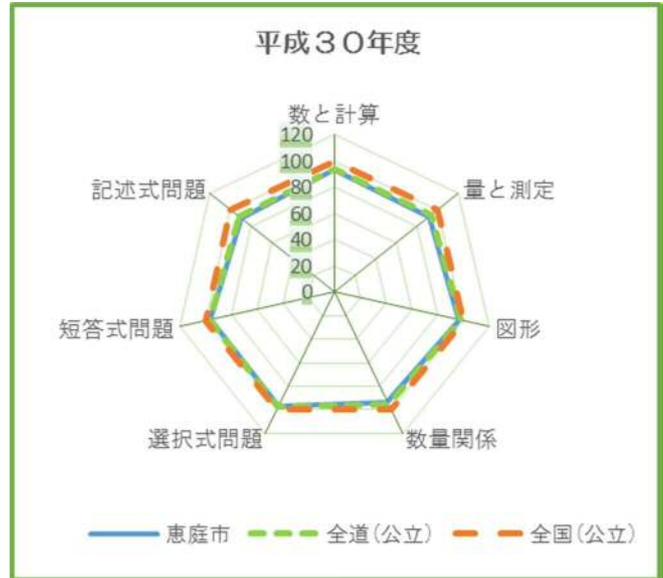


④ 小学校 算数 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間40分・設問数10問

- 各領域等の平均正答率は、「短答式問題」以外の全ての領域において60パーセントを下回った。
- 全ての領域において全国と比較してやや下回り、また全道と比較してほぼ同程度であった。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、前年度より2.4ポイント下回り、全国との差を0.1ポイントに縮めた。
- 数量の関係や根拠・解釈を記述するような設問に課題があり、併せて無解答率が高い傾向にある。
- 全国を3ポイント以上上回る設問は見られなかった。

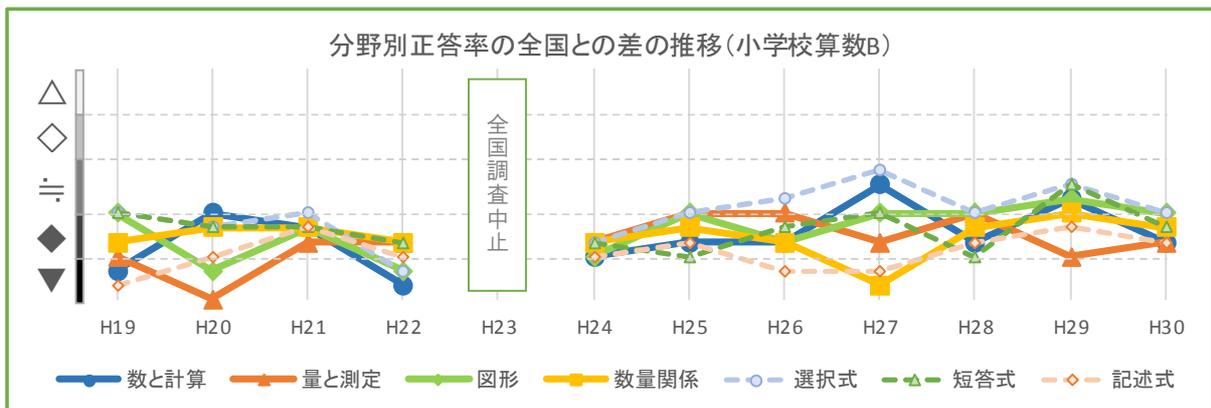
\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



\*小学校算数 B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

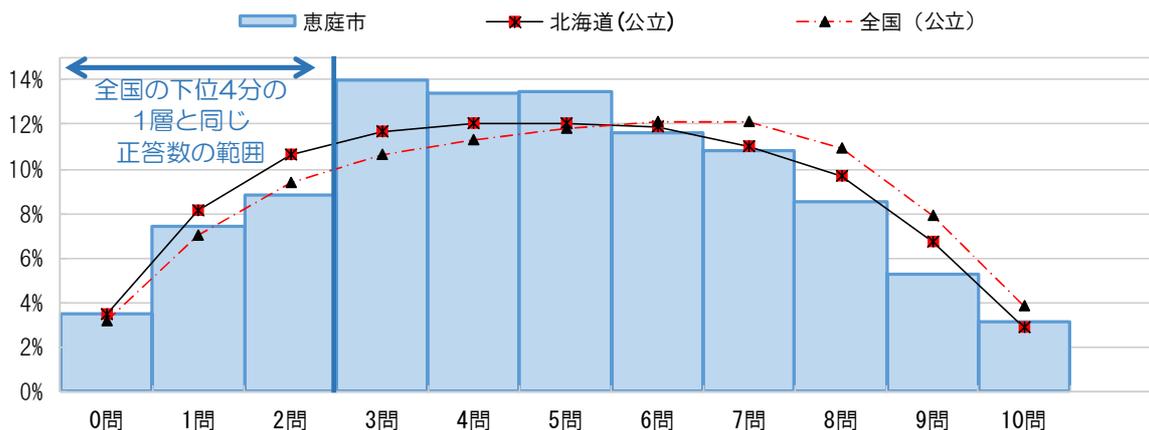
		領域別正答率				問題形式別正答率		
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H30 (今回)	恵庭市	●	・	●	・	●	○	・
	国と比較	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	全国(公立)	58.4%	52.4%	59.9%	45.1%	54.0%	66.6%	43.9%
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
	全道(公立)	54.6%	49.3%	58.8%	42.8%	52.5%	64.0%	40.3%
H29 (前回)	国と比較	≒	▼	≒	≒	≒	≒	◆
	道と比較	≒	≒	◇	≒	◇	≒	≒

記号の意味 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。

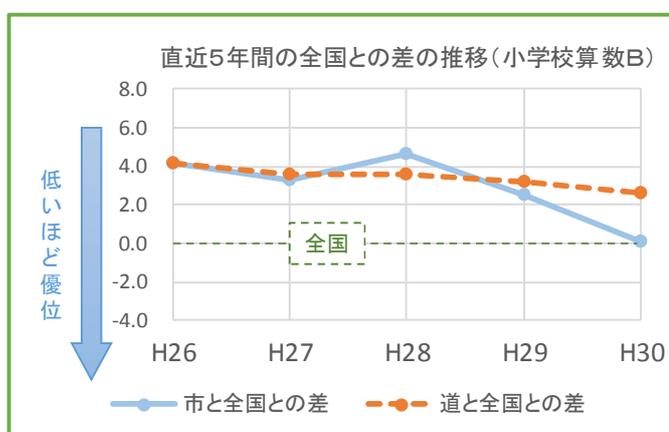
\*平成30年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H30 (今回)	恵庭市 (前回比)	<b>19.7%</b> (-13.3)	<b>0.1</b> (-2.4)
	全国 (前回比)	<b>19.6%</b> (-10.9)	
	全道 (前回比)	<b>22.2%</b> (-11.5)	2.6 (-0.6)
H29 (前回)	恵庭市	<b>33.0%</b>	<b>2.5</b>
	全国	30.5%	
	全道	33.7%	3.2

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、およその傾向が把握できる。

\*恵庭市における設問別結果の概要

全10問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	6問	数と計算	4 / 6問	選択式問題	1 / 3問
		量と測定	2 / 4問	短答式問題	1 / 2問
		図形	1 / 2問	記述式問題	4 / 5問
		数量関係	3 / 5問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が10%以上の設問	5問	数と計算	3 / 6問	選択式問題	1 / 3問
		量と測定	2 / 4問	短答式問題	0 / 2問
		図形	1 / 2問	記述式問題	4 / 5問
		数量関係	1 / 5問	※領域の重複する設問がある。	

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)		
						正答率	比較	正答率	比較	
★ 恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問										
1 (2)	一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く	図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを記述できる	量と測定・図形	記述	■	48.2%	◆	45.0%	≡	
					無解答率とその比較	14.8%	14.4%	+0.4	16.0%	-1.2
2 (2)	1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める	示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる	数と計算・量と測定・数量関係	記述	■	47.9%	◆	44.2%	≡	
					無解答率とその比較	1.1%	1.6%	-0.5	1.9%	-0.8
3 (1)	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる	数量関係	記述	■	20.7%	◆	18.3%	◆	
					無解答率とその比較	18.2%	18.0%	+0.2	20.1%	-1.9
4 (1)	「32」、「40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す	示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる	量と測定・数量関係	短答	●	62.7%	▼	58.5%	≡	
					無解答率とその比較	6.0%	6.2%	-0.2	7.1%	-1.1
5 (1)	横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる	数と計算・量と測定	記述	■	43.2%	▼	38.3%	◆	
					無解答率とその比較	20.8%	16.6%	+4.2	20.0%	+0.8
5 (2)	4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ	折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる	数と計算	選択	○	66.5%	◆	61.8%	≡	
					無解答率とその比較	11.2%	8.3%	+2.9	10.8%	+0.4
★ 上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問										
4 (2)	横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く	示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる	数と計算	記述	●	59.5%	≡	55.5%	◇	
					無解答率とその比較	12.4%	11.3%	+1.1	13.3%	-0.9

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る

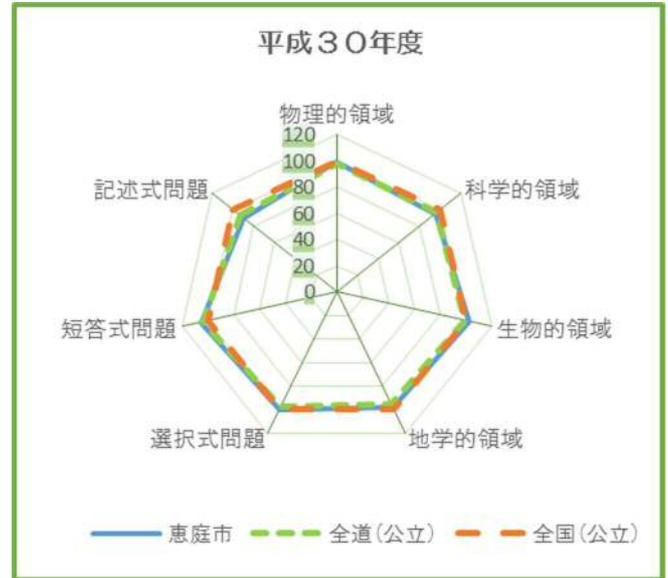


⑤ 小学校 理科

解答時間40分・設問数16問

- 各領域等の平均正答率は、「物質」「記述式問題」が全国をやや下回ったが、「短答式問題」は全国をやや上回り、「生命」は全国・全道をやや上回った。特に「短答式問題」は、正答率が80パーセントを上回った。また、「エネルギー」「物質」「地球」の正答率が60パーセントを下回った。
- 前回（平成27年度）と比較して、「生命」「地球」「選択式問題」の平均正答率で全国との差を縮め、特に「生命」は全国をやや上回った。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、前回（平成27年度）より1.3ポイント下回り、全国より1.7ポイント低かった。
- 無解答率が10ポイント以上上回る設問は見られなかった。

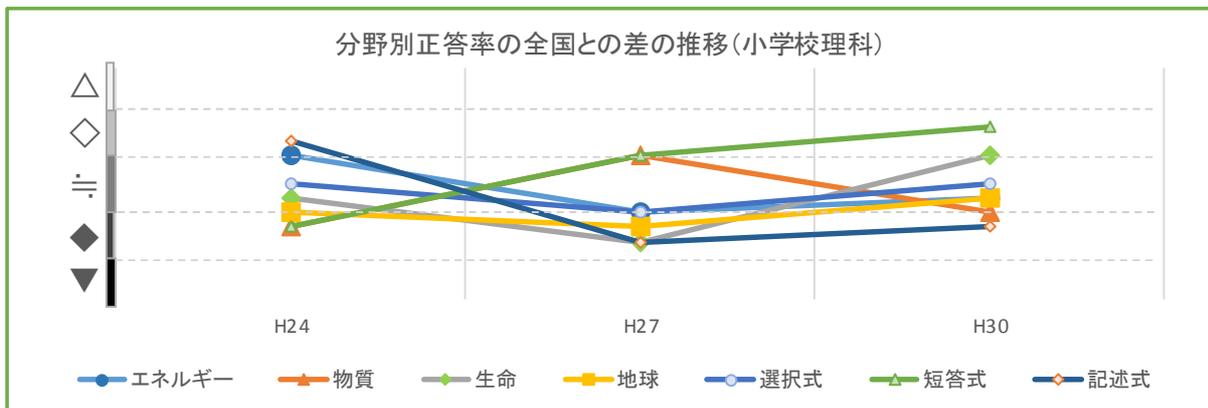
\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）



\*小学校理科 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

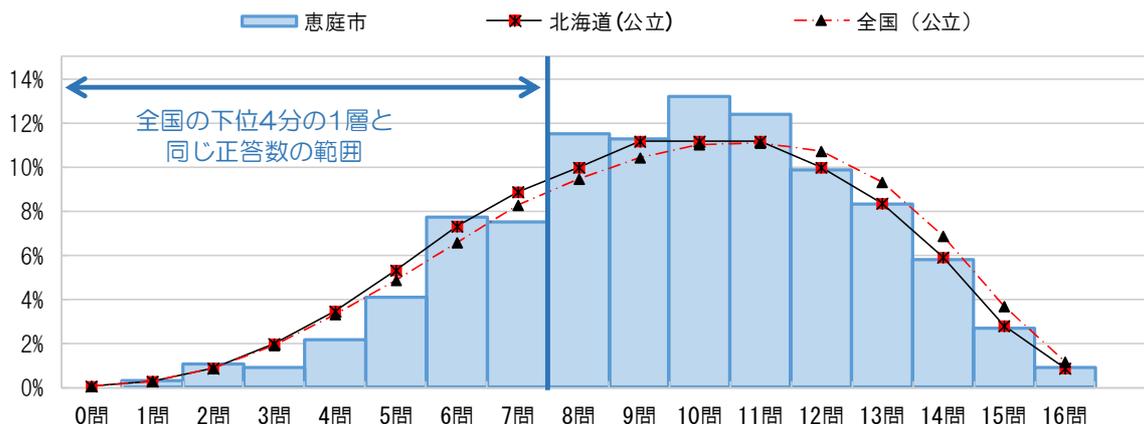
		領域別正答率				問題形式別正答率		
		エネルギー	物質	生命	地球	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H30 (今回)	恵庭市	●	●	○	・	○	◎	・
	国と比較	≒	◆	◇	≒	≒	◇	◆
	全国(公立)	59.8%	53.1%	73.6%	49.5%	63.8%	79.4%	28.0%
	道と比較	≒	≒	◇	≒	≒	≒	≒
	全道(公立)	58.2%	51.4%	73.5%	47.3%	61.9%	82.5%	26.2%
H27 (前回)	国と比較	≒	≒	◆	◆	◆	◇	◆
	道と比較	≒	≒	◆	≒	≒	≒	≒

記号の意味 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
 比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。

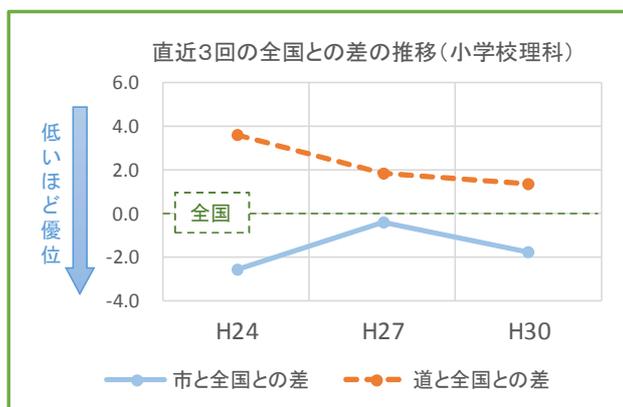
\*平成30年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H30 (今回)	恵庭市 (前回比)	16.3%	-1.7
	全国 (前回比)	18.0%	
	全道 (前回比)	19.4%	1.4
H27 (前回)	恵庭市	27.0%	-0.4
	全国	27.4%	
	全道	29.3%	1.9

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

\*恵庭市における設問別結果の概要

全16問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	2問	物質	1 / 4問	選択式問題	1 / 13問
		エネルギー	0 / 4問	短答式問題	1 / 1問
		生命	1 / 4問	記述式問題	0 / 2問
		地球	0 / 6問	※領域の重複する設問がある。	
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	3問	物質	1 / 4問	選択式問題	2 / 13問
		エネルギー	1 / 4問	短答式問題	0 / 1問
		生命	0 / 4問	記述式問題	1 / 2問
		地球	1 / 6問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が 10%以上の設問	なし				

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問</b>									
1 (3)	腕を曲げることでできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している	生命	短答	◎	79.4%	◇	82.5%	≒
					無解答率とその比較	2.0%	3.8%	-1.8	2.9%
4 (1)	ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ	ろ過の適切な操作方を身に付けている	物質	選択	○	71.1%	△	71.7%	◇
					無解答率とその比較	0.0%	0.5%	-0.5	0.5%
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問</b>									
2 (3)	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだだけを書く	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる	地球	記述	▪	20.1%	▼	17.4%	◆
					無解答率とその比較	0.2%	1.0%	-0.8	0.9%
3 (3)	回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ	実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる	エネルギー	選択	●	59.4%	◆	57.1%	◆
					無解答率とその比較	0.5%	0.6%	-0.1	0.6%
4 (3)	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる	物質	選択	▪	42.7%	▼	37.6%	◆
					無解答率とその比較	0.3%	1.3%	-1.0	1.2%

記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
	比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

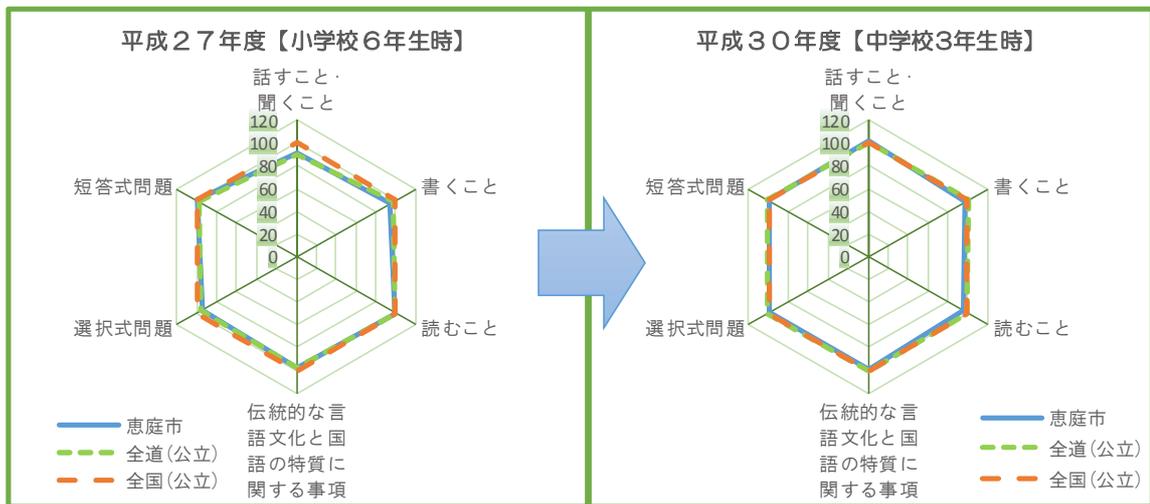


⑥ 中学校 国語A (主として「知識」に関する問題)

解答時間45分・設問数32問

- 各領域の平均正答率は、全ての領域がおおよそ70%～80%の範囲にある。「読むこと」が全国・全道と比較してやや下回っており、「書くこと」が全道と比較してやや下回っている。
- 平成27年度(小学校6年生時点)と比較して、「読むこと」は全国とのポイント差が開き、全国を下回ったが、その他の領域等では、全国との平均正答率のポイント差が縮まっている。特に、「話すこと・聞くこと」は全国の平均正答率を上回った。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合は、平成27年度～平成29年度は全国より0～1ポイント多い範囲で推移しており、平成30年度は前年度からほぼ横這いであったが、全道の下位層割合が2.9ポイント下がったため、全道の割合を上回った。
- 漢字を書く問題の正答率が低く、併せて無解答率も高い。また、段落や文章の展開について考える等、文章構造を総体的に理解することに関わる問題の正答率が低かった。

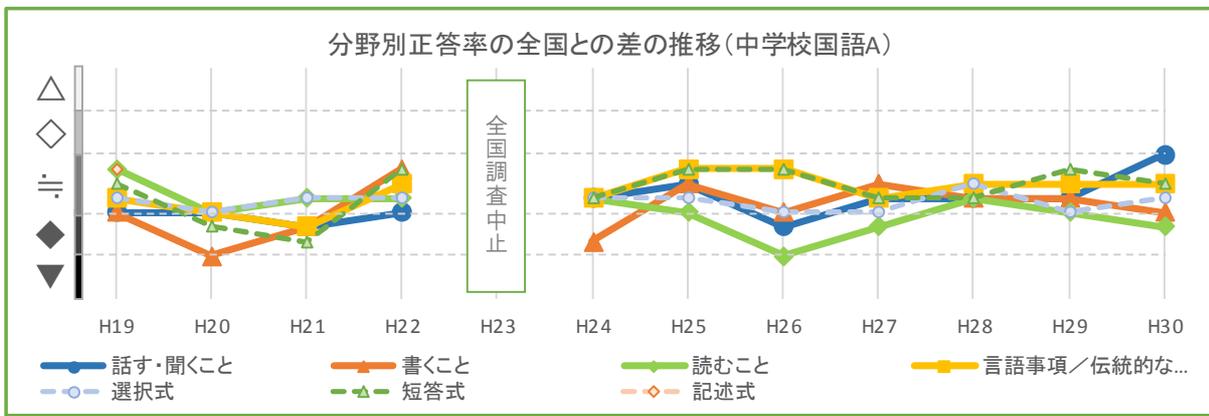
\* 全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



\* 中学校国語A 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

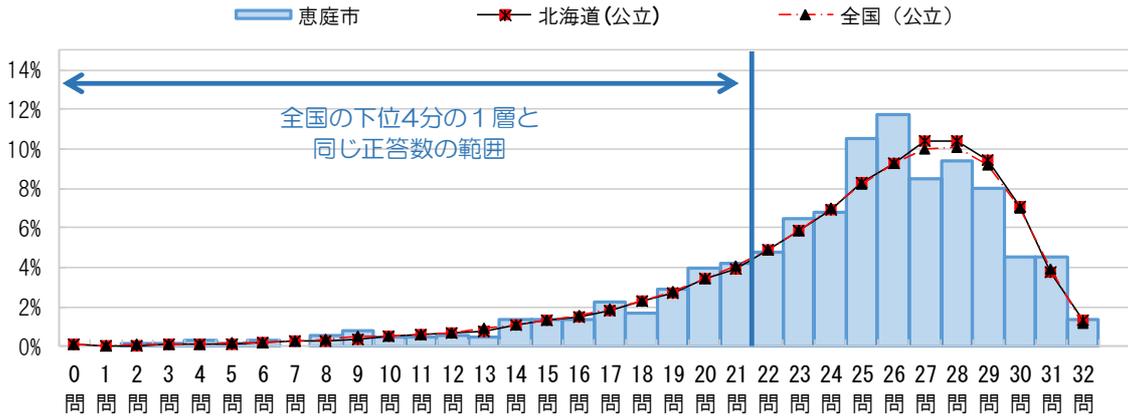
		領域別正答率				問題形式別正答率		
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化 と国語の特質に 関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H30 (今回)	恵庭市	○	○	○	○	○	○	本形式の問題なし
	国と比較	≒	≒	◆	≒	≒	≒	
	全国(公立)	75.2%	73.9%	76.7%	76.5%	76.8%	74.7%	
	道と比較	≒	◆	◆	≒	≒	≒	
	全道(公立)	76.1%	74.4%	76.4%	77.1%	77.1%	75.7%	
H29 (前回)	国と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	◇	

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%～79%	●50%～59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度における**おおよその傾向**を表したグラフである。  
 ※「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」はH23まで「言語事項」。

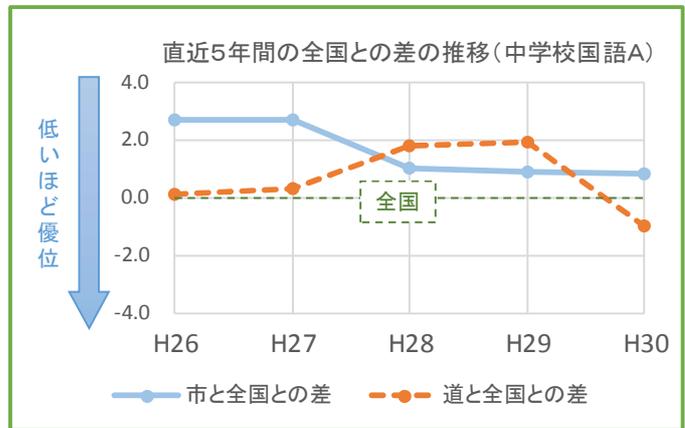
#### \*平成30年度 正答数の分布状況(横軸:正答数、縦軸:生徒全体に占める割合)



#### \*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H30 (今回)	恵庭市 (前回比)	<b>24.0%</b> (-0.1)	<b>0.8</b> (-0.1)
	全国 (前回比)	<b>23.2%</b> (+0.0)	
	全道 (前回比)	<b>22.2%</b> (-2.9)	-1.0 (-2.9)
H29 (前回)	恵庭市	<b>24.1%</b>	<b>0.9</b>
	全国	23.2%	
	全道	25.1%	1.9

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

#### \*恵庭市における設問別結果の概要

全32問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	2問	話すこと・聞くこと	1 / 3問	選択式問題	1 / 21問
		書くこと	0 / 4問	短答式問題	1 / 11問
		読むこと	0 / 4問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	1 / 21問		
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	7問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	5 / 21問
		書くこと	1 / 4問	短答式問題	2 / 11問
		読むこと	2 / 4問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	4 / 21問		
無解答率が 10%以上の設問	4問	話すこと・聞くこと	1 / 3問	選択式問題	0 / 21問
		書くこと	0 / 4問	短答式問題	4 / 11問
		読むこと	0 / 4問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	3 / 21問		

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問									
6二	話し合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書く	話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す	話すこと・聞くこと	短答	○	65.8%	△	68.1%	◇
					無解答率とその比較	11.4%	13.3%	-1.9	13.7%
8三エ	適切な語句を選択する(彼は <u>せき</u> を切ったように話し始めた)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	▪	29.2%	◇	28.1%	◇
					無解答率とその比較	0.5%	0.9%	-0.4	0.8%
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
4二	段落の内容を入れ替えて書き直す理由として適切なものを選択する	段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする	書くこと	選択	○	79.4%	◆	79.4%	◆
					無解答率とその比較	0.2%	0.3%	-0.1	0.3%
5一	本文の第六段落の説明として適切なものを選択する	段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる	読むこと	選択	○	76.3%	◆	76.1%	◆
					無解答率とその比較	0.0%	0.5%	-0.5	0.5%
5二	新聞紙の製造工程の一部を言い表したものとして適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	読むこと	選択	●	59.5%	◆	58.6%	◆
					無解答率とその比較	0.0%	0.4%	-0.4	0.3%
7一	場面に当てはまる語句の意味として適切なものを選択する(ハナイカダ)	語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	◎	87.3%	◆	86.7%	◆
					無解答率とその比較	0.2%	0.6%	-0.4	0.5%
8-2	漢字を書く(舞台の <u>ヌク</u> が上がる)	文脈に即して漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	○	72.9%	◆	74.1%	▼
					無解答率とその比較	15.2%	14.4%	+0.8	14.0%
8-3	漢字を書く(先制点を <u>ユル</u> す)	文脈に即して漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	○	71.4%	◆	71.7%	◆
					無解答率とその比較	19.1%	19.5%	-0.4	18.8%
8三ウ	適切な敬語を選択する(先生が私たちに大切なことを <u>おっしゃ</u> った)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	◎	88.0%	◆	85.7%	≡
					無解答率とその比較	0.3%	0.6%	-0.3	0.6%
★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
8-1	漢字を書く(紙をひもで <u>タ</u> バねる)	文脈に即して漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	○	79.0%	≡	82.4%	◆
					無解答率とその比較	12.2%	13.2%	-1.0	11.2%

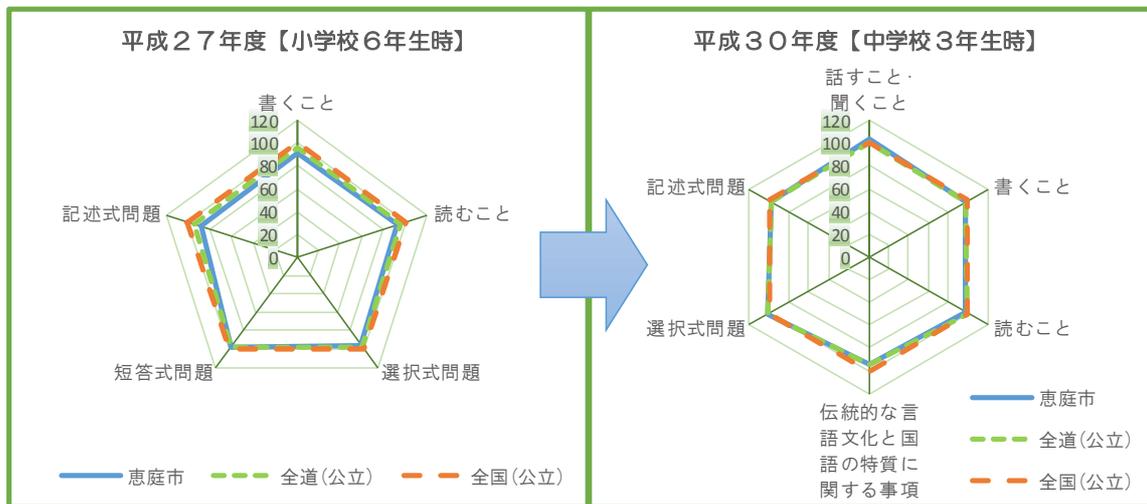
記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
	比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

⑦ 中学校 国語 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間45分・設問数9問

- 各領域等の平均正答率は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国をやや下回っているが、「話すこと・聞くこと」は全国をやや上回った。その他の領域等については、全国・全道とほぼ同程度である。
- 平成27年度(小学校6年生時点)と比較して、全ての領域等で全国とのポイント差を縮めた。特に「選択式問題」は、全国の平均正答率を上回った。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合については2.1ポイント以上減少し、全国を1.2ポイント下回った。
- 記述に関する問題の正答率が低い。無解答率も全国より上回っていることから、記述問題について回答を諦めてしまう生徒の割合が多いことが読み取れる。

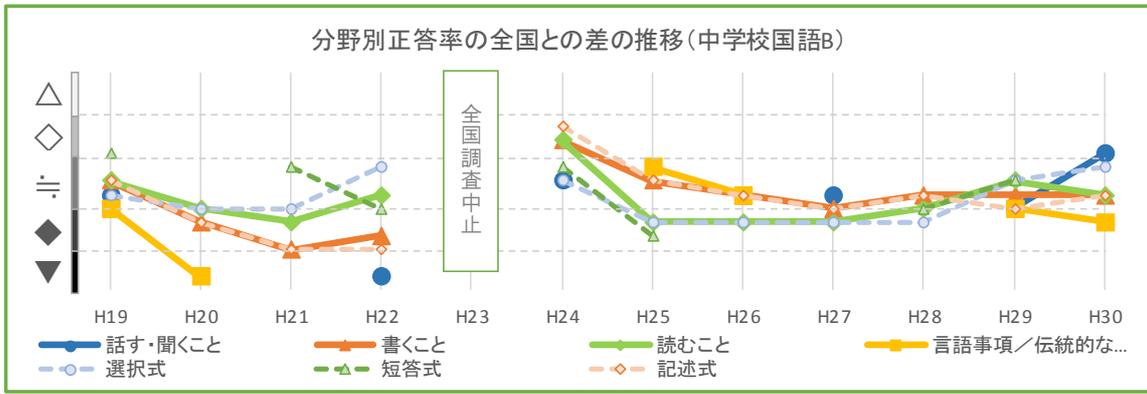
\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



\*中学校国語B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

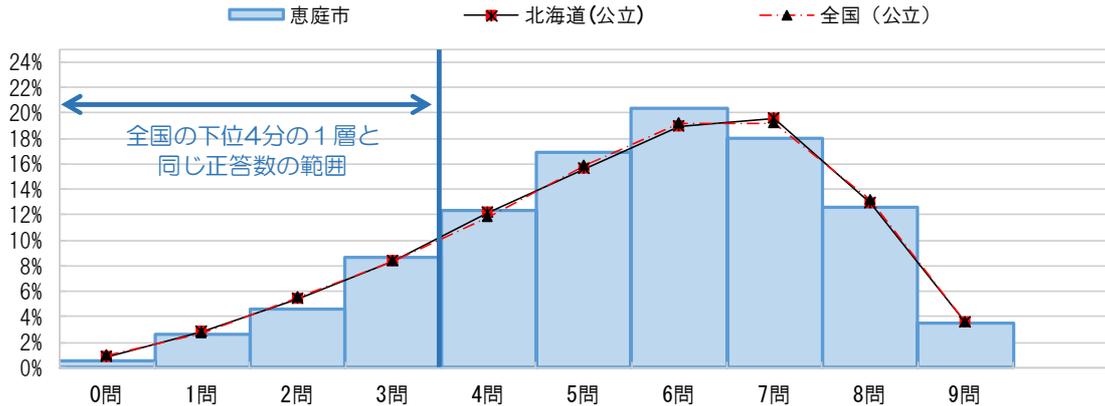
		領域別正答率				問題形式別正答率		
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化 と国語の特質に 関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H30 (今回)	恵庭市	○	▪	●	▪	○	本形式の問題なし	▪
	国と比較	◇	≡	≡	◆	≡		≡
	全国(公立)	76.6%	31.3%	53.5%	49.2%	66.7%		50.3%
	道と比較	≡	≡	≡	≡	≡		≡
	全道(公立)	77.3%	30.4%	53.1%	46.6%	67.1%		49.5%
H29 (前回)	国と比較	≡	≡	≡	◆	≡	≡	≡
	道と比較	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	▪49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。  
 ※「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」はH23まで「言語事項」。

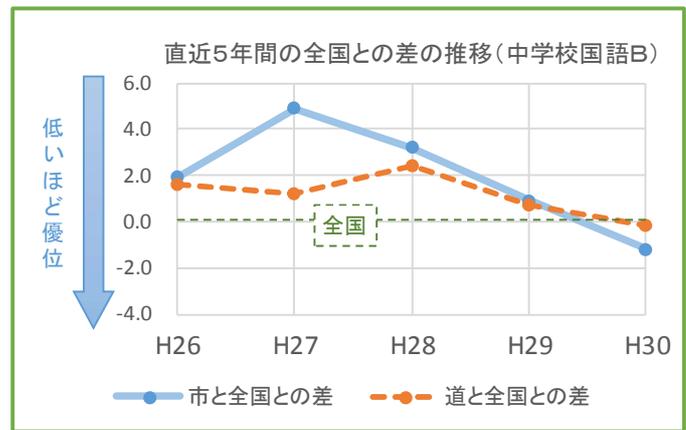
＊平成30年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



＊全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H30 (今回)	恵庭市 (前回比)	16.3% (-12.4)	-1.2 (-2.1)
	全国 (前回比)	17.5% (-10.3)	
	全道 (前回比)	17.3% (-11.2)	-0.2 (-0.9)
H29 (前回)	恵庭市	28.7%	0.9
	全国	27.8%	
	全道	28.5%	0.7

※割合は正答数ごとにまとめており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

＊恵庭市における設問別結果の概要

全9問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	1問	話すこと・聞くこと	1 / 3問	選択式問題	1 / 6問
		書くこと	0 / 2問	短答式問題	/ 0問
		読むこと	0 / 6問	記述式問題	0 / 3問
		伝統的な言語文化・...	0 / 1問	※領域の重複する設問がある。	
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	1問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	1 / 6問
		書くこと	0 / 2問	短答式問題	/ 0問
		読むこと	1 / 6問	記述式問題	0 / 3問
		伝統的な言語文化・...	0 / 1問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が 10%以上の設問	1問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	0 / 6問
		書くこと	1 / 2問	短答式問題	0 / 0問
		読むこと	1 / 6問	記述式問題	1 / 3問
		伝統的な言語文化・...	1 / 1問	※領域の重複する設問がある。	

\* 主な設問別結果一覧

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領 上の「領域」等)	形式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問</b>									
2三	ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する	全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す	話すこと・聞くこと	選択	○	54.6%	△	56.9%	◇
					無解答率とその比較	0.3%	0.4%	-0.1	0.4%
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以下回った設問</b>									
1一	グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する	文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える	読むこと	選択	▪	45.9%	▼	44.4%	◆
					無解答率とその比較	0.0%	0.2%	-0.2	0.1%
<b>★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問</b>									
3三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く	書くこと・読むこと・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	記述	▪	49.2%	◆	46.6%	≡
					無解答率とその比較	15.1%	12.4%	+2.7	15.8%

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る

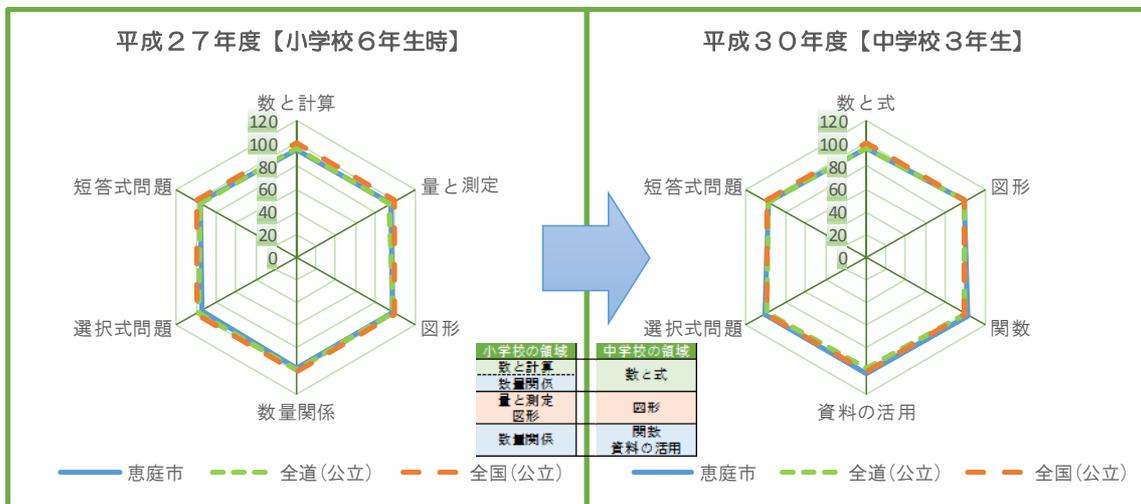


⑧ 中学校 数学 A (主として「知識」に関する問題)

解答時間45分・設問数36問

- 各領域等の平均正答率は、「数と式」で全国をやや下回っているが、その他全ての領域等は全国とほぼ同程度である。また、「資料の活用」で全道をやや上回っている。
- 平成27年度(小学校6年生時点)と比較して、全ての領域等で全国とのポイント差が縮小した。特に「数量関係」について上がり幅が大きく、小学校の「数量関係」に相当する分野「関数」「資料の活用」が全国の前正答率を上回った。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合について、前回より0.5ポイント増加し、全国より1.1ポイント上回った。恵庭市・全道ともに、全国と比較して下位層の割合が微増した。
- 「数と式」や応用的な「関数」などの文字を用いた計算問題は正答率が低く、併せて無解答率が高い傾向にあることから、文字を用いた数式の問題等に課題があると推察される。

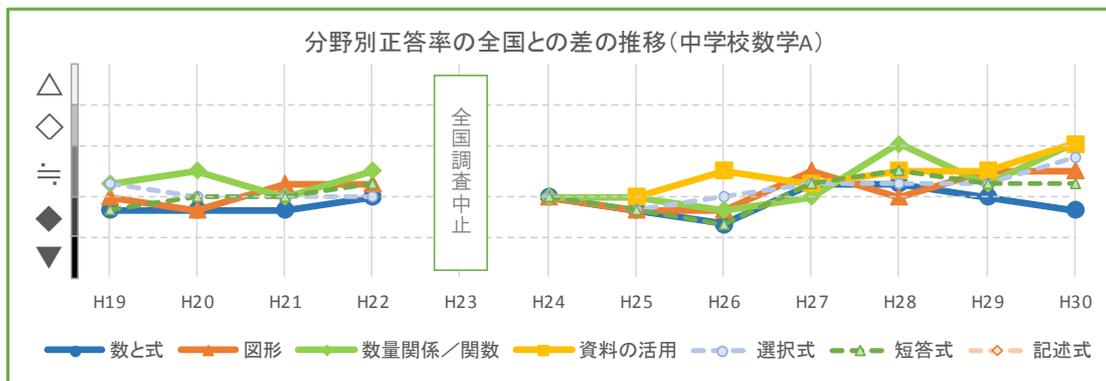
\* 全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



\* 中学校数学 A 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

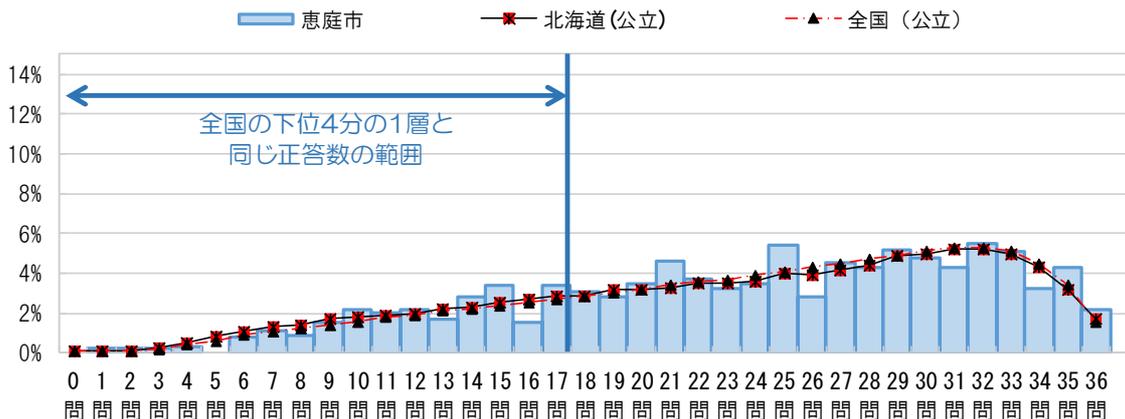
		領域別正答率				問題形式別正答率		
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H30 (今回)	恵庭市	○	○	●	○	○	○	本形式の問題なし
	国と比較	◆	≒	≒	≒	≒	≒	
	全国(公立)	71.1%	69.1%	55.5%	63.5%	61.5%	70.7%	
	道と比較	≒	≒	≒	◇	≒	≒	
	全道(公立)	68.7%	68.4%	55.3%	62.3%	60.8%	69.1%	
H29 (前回)	国と比較	◆	≒	≒	≒	≒	≒	
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	

記号の意味 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
 比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。  
 ※「関数」はH24まで「数量関係」、「資料の活用」はH25新設。

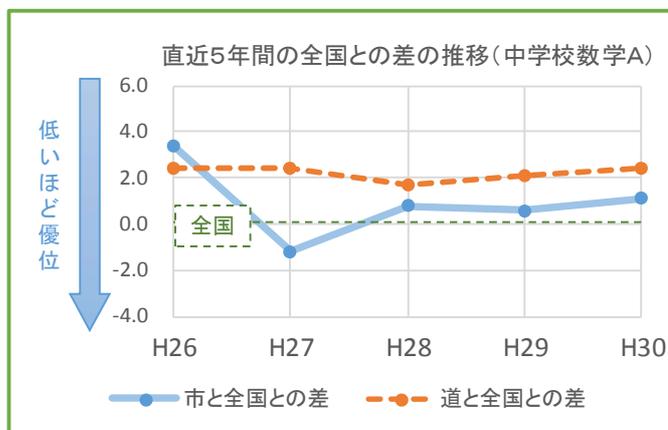
＊平成30年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



＊全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H30 (今回)	恵庭市 (前回比)	24.4% (-1.4)	1.1 (+0.5)
	全国 (前回比)	23.3% (-1.9)	
	全道 (前回比)	25.7% (-1.6)	2.4 (+0.3)
H29 (前回)	恵庭市	25.8%	0.6
	全国	25.2%	
	全道	27.3%	2.1

※割合は正答数ごとにまとめており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

＊恵庭市における設問別結果の概要

全36問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	5問	数と式	0 / 12問	選択式問題	4 / 18問
		図形	2 / 12問	短答式問題	1 / 18問
		関数	2 / 8問	記述式問題	/ 0問
		資料の活用	1 / 4問		
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	7問	数と式	5 / 12問	選択式問題	2 / 18問
		図形	2 / 12問	短答式問題	5 / 18問
		関数	0 / 8問	記述式問題	/ 0問
		資料の活用	0 / 4問		
無解答率が10%以上の設問	3問	数と式	1 / 12問	選択式問題	0 / 18問
		図形	0 / 12問	短答式問題	3 / 18問
		関数	2 / 8問	記述式問題	/ 0問
		資料の活用	0 / 4問		

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問</b>									
4(3)	長方形ABCDを、点Aを中心として時計回りに90°だけ回転移動した図形をかく	回転移動した図形をかくことができる	図形	短答	○	66.1%	◇	68.5%	≡
					無解答率とその比較	4.1%	4.4%	-0.3	4.5%
7(1)	△ABCと△DEFが合同であるための条件として、正しいものを選ぶ	2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相等関係について理解している	図形	選択	○	72.0%	◇	71.7%	◇
					無解答率とその比較	0.2%	0.5%	-0.3	0.5%
11(2)	一次関数 $y = -2x + 6$ が表すグラフを選ぶ	一次関数 $y = ax + b$ について、a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している	関数	選択	○	56.3%	△	55.7%	△
					無解答率とその比較	0.3%	0.9%	-0.6	0.9%
12	歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ	一次関数の意味を理解している	関数	選択	▪	36.4%	△	34.4%	△
					無解答率とその比較	0.3%	1.0%	-0.7	1.0%
15(1)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している	資料の活用	選択	▪	40.2%	△	40.6%	△
					無解答率とその比較	0.8%	1.8%	-1.0	1.8%
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問</b>									
1(2)	絶対値が6である数を書く	絶対値の意味を理解している	数と式	短答	○	69.0%	▼	60.2%	≡
					無解答率とその比較	9.8%	7.3%	+2.5	11.0%
1(3)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	数と式	短答	○	68.9%	◆	63.1%	≡
					無解答率とその比較	0.6%	1.0%	-0.4	1.1%
2(1)	「1個 a kg の荷物3個と1個 b kg の荷物4個の全体の重さは15 kg 以上である」という数量の関係を表し	数量の大小関係を不等式に表すことができる	数と式	短答	▪	41.5%	▼	39.1%	◆
					無解答率とその比較	8.1%	8.5%	-0.4	9.8%
2(3)	a=3、b=-4 のときの式 $a - 2b$ の値を求める	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	数と式	短答	○	78.5%	◆	75.7%	≡
					無解答率とその比較	6.3%	4.8%	+1.5	5.4%
2(4)	等式 $S = \frac{1}{2}ah$ を、a について解く	具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる	数と式	短答	▪	48.2%	▼	47.2%	▼
					無解答率とその比較	14.4%	15.3%	-0.9	17.5%
5(4)	底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ	四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $\frac{1}{3}$ であることを理	図形	選択	●	57.6%	▼	54.3%	◆
					無解答率とその比較	0.2%	0.5%	-0.3	0.5%
6(1)	三角形の外角を表す式を選ぶ	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している	図形	選択	○	71.4%	▼	69.1%	◆
					無解答率とその比較	0.2%	0.4%	-0.2	0.4%
<b>★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問</b>									
9(2)	比例のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求める	与えられた比例のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求めることができる	関数	短答	●	55.0%	≡	55.1%	≡
					無解答率とその比較	12.9%	13.0%	-0.1	13.8%
11(1)	一次関数 $y = 2x + 7$ について、xの値が1から4まで増加したときのyの増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、xの値の増加に伴うyの増加量を求めることができる	関数	短答	▪	45.3%	≡	47.0%	≡
					無解答率とその比較	13.1%	14.8%	-1.7	16.1%

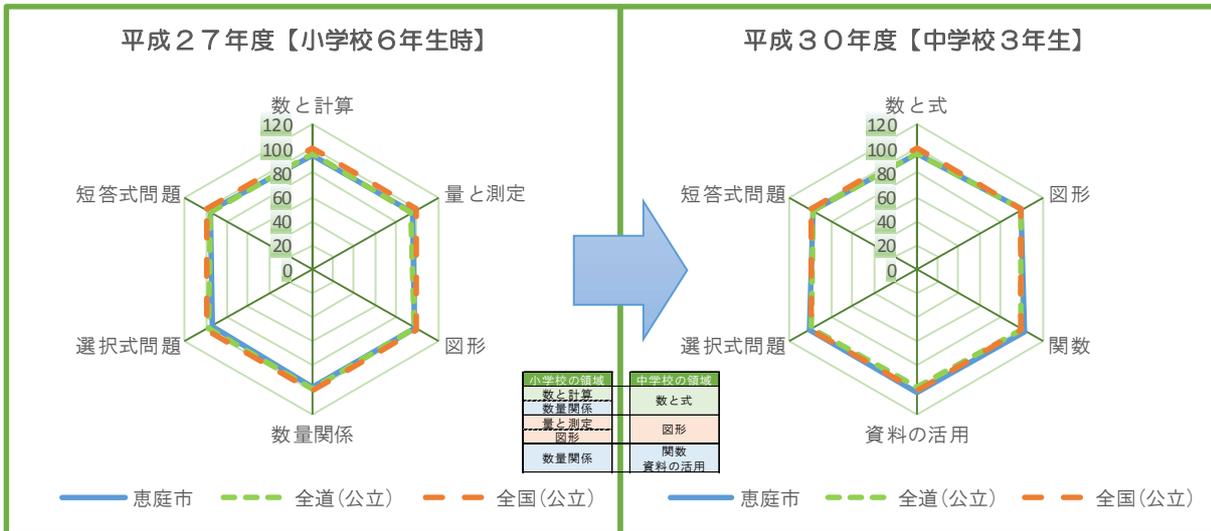
記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る

⑨ 中学校 数学 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間45分・設問数14問

- 各領域等の平均正答率は、「資料の活用」「短答式問題」で全国をやや上回っている。平成29年度は「図形」「選択式問題」「記述式問題」が全国をやや下回っていたが、いずれも改善され、他の領域等も全国とほぼ同程度である。
- 平成27年度(小学校6年生時点)と比較して、「数と計算(中学校の「数と式」に相当)」以外の全ての領域等でポイント差が縮小し、小学校の数量関係に対応する「関数」「資料の活用」や、「図形」、「選択式問題」「短答式問題」で全国のポイント上回っている。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合については、前回が増加傾向であったが、今回は1.8ポイント減少し、全国の割合を1.3ポイント下回った。
- 前回と比較し、無解答率が10パーセント以上となった問題数が大きく減少した。また、前は全国平均を3ポイント以上上回る問題がなかったが、今年度は資料の活用に関する問題が2問、全国平均を3ポイント以上上回った。
- 理由や方法等を説明する記述式問題について、恵庭市の正答数は低く無解答率も高い傾向にあった。

\* 全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)

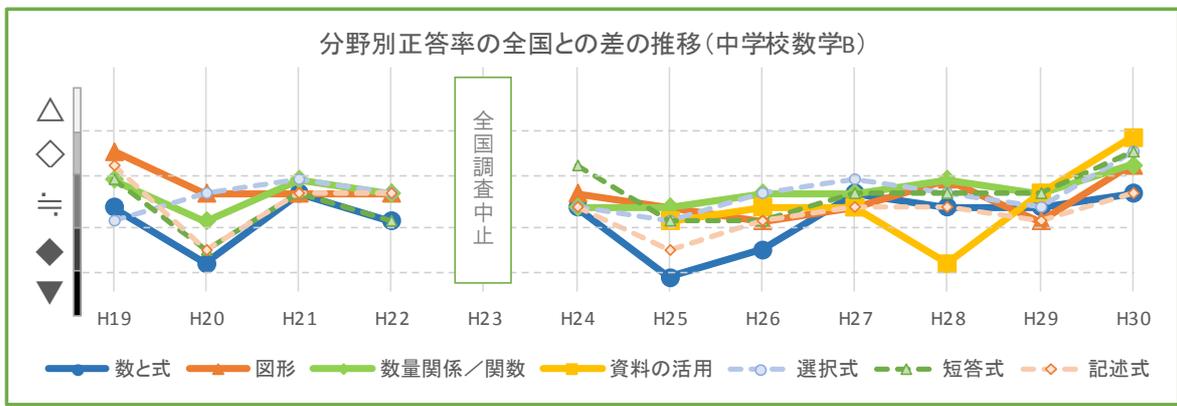


\* 中学校数学 B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H30 (今回)	恵庭市	●	・	●	・	○	●	・
	国と比較	≒	≒	≒	◇	≒	◇	≒
	全国(公立)	51.4%	46.7%	52.8%	38.0%	61.5%	56.2%	27.9%
	道と比較	≒	◇	≒	◇	◇	◇	≒
	全道(公立)	49.9%	45.1%	52.0%	37.4%	61.3%	55.3%	26.2%
H29 (前回)	国と比較	≒	◆	≒	≒	◆	≒	◆
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒

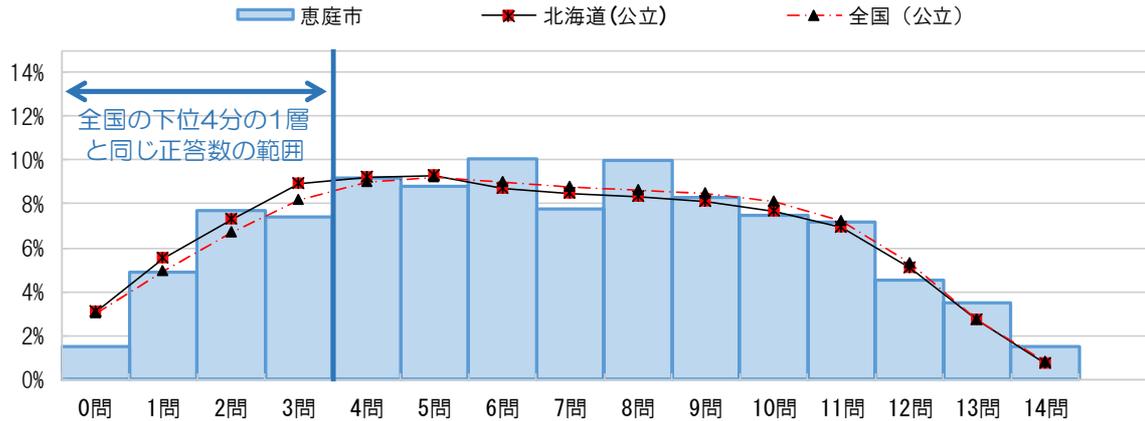
  

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下	
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る	▼下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度における**おおよその傾向**を表したグラフである。  
 ※「数量関係」はH25より「関数」と「資料の活用」に分離。

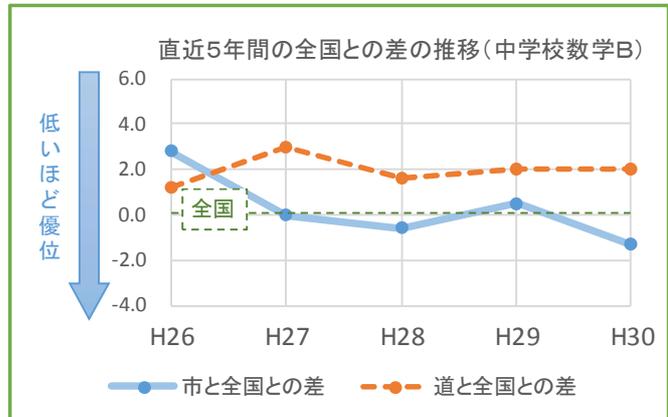
### \*平成30年度 正答数の分布状況(横軸:正答数、縦軸:生徒全体に占める割合)



### \*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H30 (今回)	恵庭市 (前回は)	<b>21.5%</b> (-1.5)	<b>-1.3</b> (-1.8)
	全国 (前回は)	<b>22.8%</b> (+0.3)	
	全道 (前回は)	<b>24.8%</b> (+0.3)	2.0 (+0.0)
H29 (前回)	恵庭市	<b>23.0%</b>	<b>0.5</b>
	全国	22.5%	
	全道	24.5%	2.0

※割合は正答数ごとにまとめており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

### \*恵庭市における設問別結果の概要

全14問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	2問	数と式	0 / 4問	選択式問題	0 / 2問
		図形	0 / 3問	短答式問題	2 / 7問
		関数	0 / 3問	記述式問題	0 / 5問
		資料の活用	2 / 4問		
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	1問	数と式	1 / 4問	選択式問題	0 / 2問
		図形	0 / 3問	短答式問題	0 / 7問
		関数	0 / 3問	記述式問題	1 / 5問
		資料の活用	0 / 4問		
無解答率が 10%以上の設問	5問	数と式	1 / 4問	選択式問題	0 / 2問
		図形	1 / 3問	短答式問題	1 / 7問
		関数	1 / 3問	記述式問題	4 / 5問
		資料の活用	2 / 4問		

\* 主な設問別結果一覧

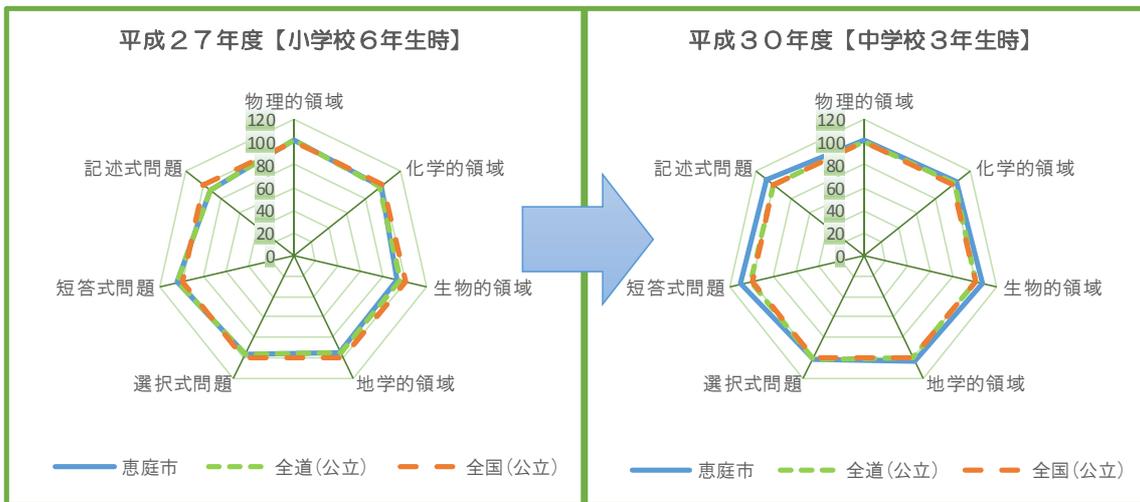
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問</b>									
1(2)	放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める	与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる	資料の活用	短答	■	43.9%	◇	43.9%	◇
						無解答率とその比較	6.5%	7.0%	-0.5
5(1)	S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	資料の活用	短答	■	16.0%	△	17.4%	◇
						無解答率とその比較	21.7%	24.1%	-2.4
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問</b>									
2(2)	はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	数と式	記述	■	37.5%	◆	34.9%	◆
						無解答率とその比較	25.5%	25.0%	+0.5
<b>★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問</b>									
1(3)	全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	資料の活用	記述	■	36.2%	≡	34.2%	◇
						無解答率とその比較	25.8%	24.9%	+0.9
3(3)	A駅からの道のりが6kmの地点において、列車Aが通ってから列車Bが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	関数	記述	■	13.2%	◆	11.6%	≡
						無解答率とその比較	33.9%	33.4%	+0.5
4(3)	平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる	図形	記述	■	42.3%	≡	40.5%	≡
						無解答率とその比較	24.0%	24.6%	-0.6

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る



- ・各領域等の平均正答率は、「生物的領域」「短文式問題」が全国より上回っている。また、「化学的領域」「記述式問題」が全国をやや上回っている。
- ・平成27年度（小学校6年生時点）と比較して、「化学的領域」「生物的領域」「記述式問題」が更に全国との差を広げて上回った。「短文式問題」は、前回、今回ともに全国を上回っている。
- ・正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合については、前回より1.3ポイント減少し、全国より4.9ポイント下回った。
- ・全国より3ポイント以上上回った問題が12問あり、うち4問は大きく上回っていた。

\* 全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）



\* 中学校数学B 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域	選択式問題	短文式問題	記述式問題
H30 (今回)	恵庭市	○	○	○	●	○	○	●
	国と比較	≒	◇	△	≒	≒	△	◇
	全国(公立)	74.4%	65.0%	72.5%	57.8%	70.9%	70.2%	50.1%
	道と比較	≒	≒	◇	≒	≒	△	◇
	全道(公立)	74.6%	66.3%	73.6%	57.6%	71.6%	71.3%	49.9%
H27 (前回)	国と比較	≒	≒	◇	◇	≒	△	≒
	道と比較	≒	≒	◇	≒	≒	◇	≒

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る



\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問【上位5問抜粋】</b>									
4(2)	図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる	化学的領域	記述	●	44.1%	△	45.0%	△
					無解答率とその比較	12.3%	15.5%	-3.2	13.7%
4(3)	図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる	化学的領域	記述	●	49.4%	△	49.4%	△
					無解答率とその比較	14.1%	16.2%	-2.1	16.8%
5(1)	「運転中に運転士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探究する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事象・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	神経系の働きについての知識を身に付けている	生物的領域	短答	○	57.2%	△	56.9%	△
					無解答率とその比較	3.1%	7.1%	-4.0	6.1%
6(2) 抵抗	自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる	物理的領域	短答	●	51.9%	△	54.7%	◇
					無解答率とその比較	12.0%	14.6%	-2.6	14.1%
7(1)	緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けている	地学的領域	選択	●	55.1%	◇	55.0%	◇
					無解答率とその比較	0.0%	0.4%	-0.4	0.3%
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問</b>									
1(1)	光の反射を利用した「テレプロンプター」のモデルを作って科学的に探究する場面において、光の直進や反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用することができるかどうかをみる	光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる	物理的領域	選択	●	61.7%	◆	58.0%	≡
					無解答率とその比較	0.0%	0.1%	-0.1	0.1%
3(1)	コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用すること	風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる	地学的領域	選択	■	37.5%	◆	35.8%	≡
					無解答率とその比較	0.0%	0.2%	-0.2	0.2%
<b>★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問</b>									
8(3)	火を使わないで発熱する商品の仕組みを科学的に探究して実験ノートにまとめる場面において、化学変化と熱についての知識と問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし探究を深めようとしている	化学的領域	記述	○	74.0%	≡	73.4%	≡
					無解答率とその比較	19.4%	20.3%	-0.9	21.3%

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る

### 3 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果

#### (1) 小学校児童質問紙調査結果の概要

小学校 児童質問紙  
学校質問紙

回答時間20～40分・質問数62問  
回答時間設定なし・質問数84問

質問紙調査の主な項目の回答結果データは、42ページ以降に掲載しています。

#### ア. 生活習慣

【早寝早起き朝ごはん】早寝早起きについて直接の質問はないが、「毎日同じくらいの時刻に起きている」と答えた割合は全国より1.2ポイント、全道より0.5ポイント低い。「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と答えた割合は、全国・全道より3.8ポイント低かった。「朝食を毎日食べている」と答えた割合は、全国より0.4ポイント高く、全道より2.1ポイント高い。起床時間・朝食については9割前後の児童が肯定的に回答しているが、就寝時間の肯定的回答は7割程度であり、他の質問と比較して全国との差が大きく、**寝る時間が全国より不規則である**と言える。

【テレビ・ゲーム・スマホ】今回調査ではテレビ・ゲーム・スマホに関する設問がなかったが、例年の回答傾向や前述の就寝・起床に関する分析をふまえて、夜更かして生活リズムを崩したり、家でのだらんや学習の時間を損ねないように、道教委の示す全て合わせて2時間以内を目安に、家庭・学校双方から「節度ある利用」を指導していくことが、引き続き重要となる。

【参考】道教委リーフレット「時間の目安を決めて子どもの生活リズムを整える！」  
([http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/jikan\\_meyasu.htm](http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/jikan_meyasu.htm))  
※ 記載したウェブサイトのアドレスは、平成31年2月現在のものです。

#### イ. 自分やまわりへの意識

【自尊感情】「自分には良いところがある」と答えた割合は、81.6%であり、前年と比較すると9ポイント程度上昇したが、全国より2.4ポイント、全道より1.1ポイント下回っている。

【挑戦心・親切心】「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合は82.7%であるが、全国より2.4ポイント、全道より1.3ポイント低い。「地域の行事へ参加している」と答えた割合は56.9%であり、全道より1ポイント高いが、全国より5ポイント以上低い。「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と答えた割合が、全国より14.5ポイント、全道より17.4ポイント高く、前年も高い水準であったが今回は更に上回っている。このことから、**人のためになる活動に参加しようとする、親切心を発揮できる児童の割合が多い**と考えられる。

#### ウ. 家庭学習

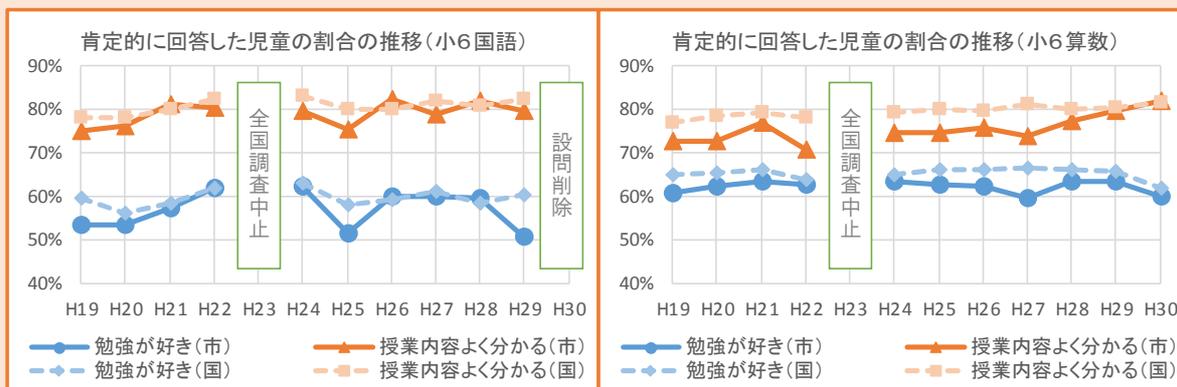
【家庭学習の時間】市教委では、小学校6年生の家庭学習の時間の目安を70分(学年×10分+10分)としている。これをほぼ達成するレベルとして、「平日に1時間以上学校以外で勉強している」と答えた割合は62.7%であり、全道より5.6ポイント高いが、全国より3.5ポイント低い。一方で、「家で学校の授業の予習・復習をしている」と答えた割合は96.3%であり、全国より6.4ポイント、全道より3.4ポイント高い。このことから、**学校において学習内容の定着を目指した家庭学習の指導が行われ、児童が着実に実践しているが、平日の習慣として十分な時間を家庭学習に充てる**ことが課題として残されている。  
(次ページへ続く)

【家庭学習の内容】「家で学校の授業の予習・復習をしている」と答えた割合は96.3%で、全国より6.4ポイント高く、全道より3.4ポイント高い。「家で、自分で計画を立てて勉強している」と答えた割合も、全国・全道より0.3ポイント高いことから、**学校での学習指導に基づき、児童が自主的に家庭学習を実践している傾向にあると考えられる。**

## エ. 学校での学習

【学習活動全般】「5年生までに受けた授業で課題の解決に向けて自分で考え取り組んでいた」と答えた割合は74.4%であり、全国・全道平均を下回っている。また「自分の考えを発表する機会、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と答えた割合は55.3%で、全国より5.7ポイント、全道より4.0ポイント低い。このことから、**自身で物ごとについて考え、発表することが課題と考えられる。**一方で、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」と答えた割合が79.2%で、全国を1.5ポイント、全道を1.9ポイント上回っていることから、**周囲と交流しながら物ごとについて考え、意見を深める力が培われていることが推察される。**

【算数・理科】国語についての設問は今年度削除されている。「算数の勉強が好き」と答えた割合は、59.9%と全国より4.1ポイント低い。「算数の授業の内容がよく分かる」と答えた割合は82.0%と、全国より1.4ポイント低い。この2つの設問に関し（好き・良く分かるなどと）肯定的に回答した割合の推移は下図のとおりで、平成30年度は前年度と比較して、算数の勉強が好きと答えた割合は減少傾向にあるが、授業内容がよく分かる割合がやや増加傾向にある。



また、今回の「教科に関する調査（テスト）」の全ての記述式問題を解くのに最後まで努力したと答えた割合は、**算数**が全国より1.3ポイント低く、**理科**は全国より1ポイント高くなっている。

## オ. 読書

【読書習慣】「（授業時間以外に）平日1日30分以上読書する」と答えた割合は38.2%で、全国より2.9ポイント、全道より0.5ポイント低く、「全く読書しない」と答えた割合は21.4%であり、全国より2.7ポイント高く、全道より0.7ポイント低くなっている。また、「新聞を週1回以上読んでいる」と答えた割合は21.0%で、全国より1.1ポイント高く、全道より0.9ポイント低い。

## (2) 中学校生徒質問紙調査結果の概要

中学校 生徒質問紙  
学校質問紙

回答時間20～45分・質問数59問  
回答時間設定なし・質問数81問

質問紙調査の主な項目の回答結果データは、[42ページ以降](#)に掲載しています。

### ア. 生活習慣

【早寝早起き朝ごはん】「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と答えた割合は72.6%で、全国より1.6ポイント、全道より0.4ポイント低い。全国と比較して、やや就寝時間が不規則であるといえる。「毎日同じくらいの時刻に起きている」と答えた割合や、「朝食を毎日食べている」と答えた割合は、全国・全道とほぼ同程度であり、9割以上の生徒が肯定的に回答している。

### イ. 自分やまわりへの意識

【自尊感情】「自分には良いところがある」と答えた割合は76.3%であり、全国より2.5ポイント、全道より1.9ポイント低いが、平成29年度(64.2%)と比べ12.1ポイントと割合が大幅に増加した。

【挑戦心・親切心】「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合は74.0%であり、全国より1.6ポイント、全道より2.7ポイント高い。また、「地域の行事へ参加している」と答えた割合は45.6%であり、全国と同程度だが、全道を6.6ポイント上回っている。また、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と答えた割合も、全国より15.4ポイント、全道より19.8ポイント高く、地域行事や人のためになる活動に積極的に参加し、親切心を発揮できる生徒の割合が多いと考えられる。

### ウ. 家庭学習

【家庭学習の時間】市教委では、中学校3年生の家庭学習の時間の目安を100分(小1から数えた学年×10分+10分)としている。これをほぼ達成するレベルとして、「平日に1時間以上学校以外で勉強している」と答えた割合は68.1%であり、全国より2.5ポイント低いが、全道を3.4ポイント上回った。今回の中学校3年生が小学校6年生だった時点(平成27年度)では、平日に1時間以上勉強していると答えた割合は51.4%であったので、3年が経過して16.7ポイント増加した。

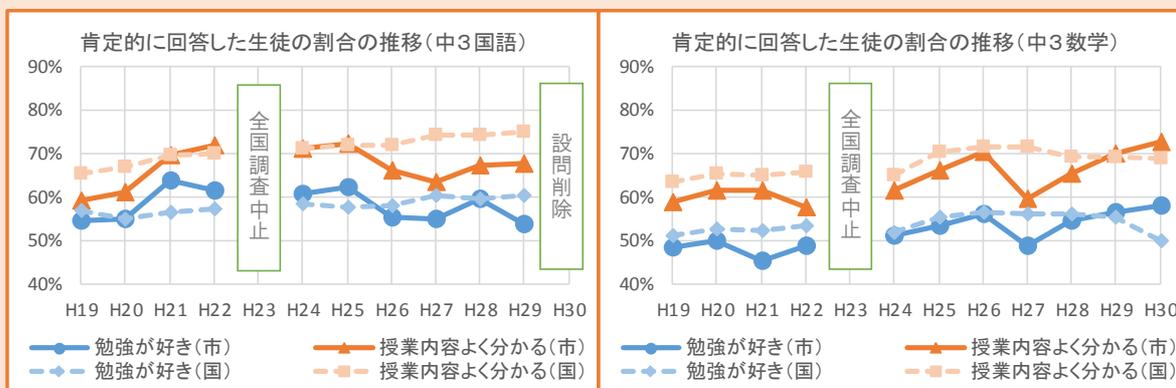
【家庭学習の内容】「家で学校の授業の予習・復習をしている」と答えた割合は89.8%で、全国より3ポイント、全道より1.4ポイント高い。小学校と同様、学校において学習内容の定着を目指した家庭学習の指導が行われ、生徒が着実に実践していると考えられる。また、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた割合は、全国・全道とほぼ同程度であった。

(次ページへ続く)

## エ. 学校での学習

【学習活動全般】「中学校1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と答えた割合は48.7%で、全国より5.1ポイント、全道より3.5ポイント低く、課題が残されている一方、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた割合が77.5%で、全国を1.2ポイント、全道を2.5ポイント上回っている。

【数学・理科】国語についての設問は今年度削除されている。数学の勉強が好きと答えた割合は、58.2%と全国より4.3ポイント、全道より8.2ポイント高い。数学の授業の内容がよく分かると答えた割合は72.6%であり、全国より1.6ポイント、全道より3.8ポイント高い。この2つの設問に関し（好き・良く分かるなど）肯定的に回答した割合の推移は下図のとおりで、平成30年度は前年度と比較して、「数学の勉強が好き」「数学の授業内容がよく分かる」と回答した割合は、それぞれ増加傾向にある。



なお、今回の中学校3年生が小学校6年生だった時点（平成27年度）では、「その教科の勉強が好き」と答えた割合は、算数では59.8%、理科では82.8%であり、3年経過して、数学では割合が1.6ポイント、理科では7.1ポイント減少している。「その教科の授業の内容がよく分かる」と答えた割合は、算数では74.0%、理科では90.0%であり、3年経過して、数学が1.4ポイント、理科は12.2ポイント低下している。

また、今回の「教科に関する調査（テスト）」の全ての記述式問題を解くのに最後まで努力したと答えた割合は、数学は全国より0.7ポイント高く、理科は全国より6.2ポイント高い。全国と比較して、与えられた学習内容や問題に取り組もうという意欲が全国よりも高い傾向にあると推察される。

## オ. 読書

【読書習慣】「（授業時間以外に）平日30分以上読書する」と答えた割合は32.5%で、全国より1.6ポイント高く、全道より0.3ポイント低い。一方、「平日に全く読書をしない」と答えた割合は27.6%で、全国より5.3ポイント低く、全道より3.1ポイント低い。このことから、読書習慣が定着している生徒は全国とほぼ同程度であるが、全く読書をしない生徒が全国よりも少ないことが読み取れる。

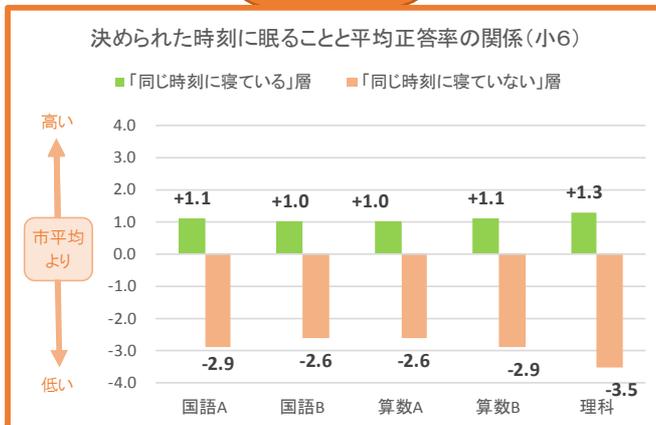
(3) 児童・生徒質問紙の回答状況と学力のクロス集計（基準別集計）結果

今回、児童・生徒質問紙の質問への回答状況をもとに、「就寝時間」「起床時間」「朝ごはん」「家庭学習」「読書」という5種類の習慣の結果ごとにグループ分けし、それぞれのグループ別に「教科に関する調査（テスト）」の教科別結果（市平均と比べたときのポイント差）を割り出して、それぞれの習慣の結果と、各教科の結果に相関関係があるかどうかを考察した。

- 特に、「決められた時刻に寝ない・起きない」「朝食を食べていない」「家庭学習の時間が短い」ことは、各教科の結果が市平均よりマイナスになることと相関関係があると思われる。逆に、「一定時間の読書習慣がある」ことは、特に国語の結果が市平均よりプラスになることと相関関係があると思われる。

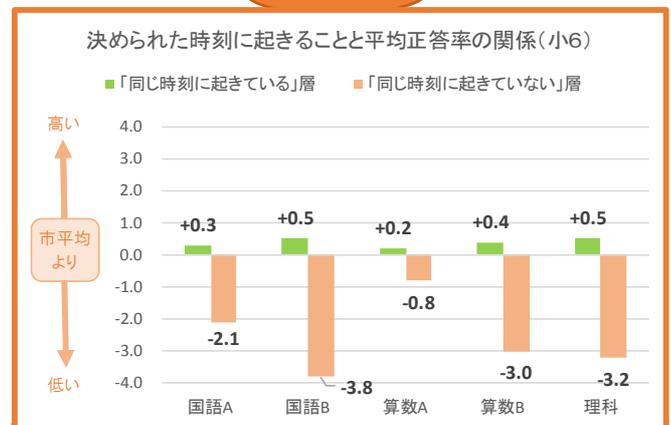
① 小学校6年生

就寝時間



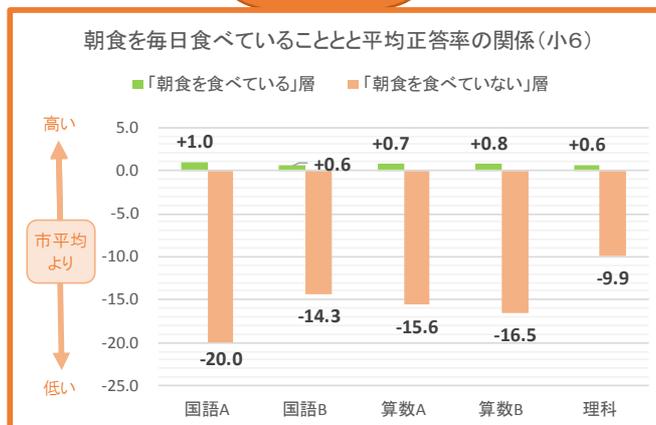
「同じ時刻に寝ている」層の平均正答率が全体的に市平均より1ポイント以上高く、逆に「同じ時刻に寝ていない」層は2.5ポイント以上低い。

起床時間



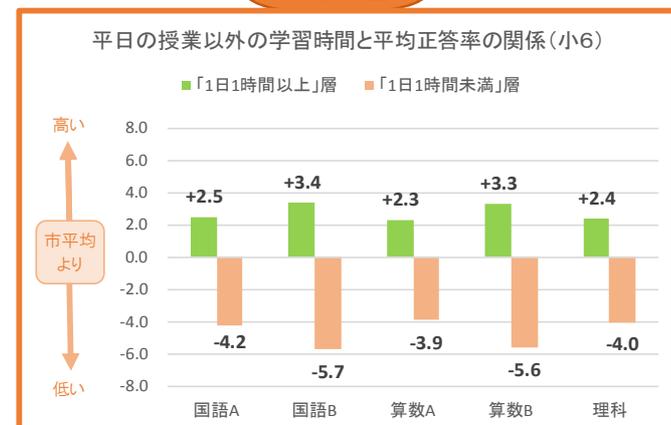
「同じ時刻に起きている」層の平均正答率が全体的に市平均より0~0.5ポイントほど高く、逆に「同じ時刻に起きていない」層では0.5~4ポイントほど低い。

朝ごはん



「朝食を毎日食べている」層の平均正答率が全体的に市平均より0.5~1ポイントほど高く、逆に「朝食を毎日食べていない」層では9.5~20ポイントほど低い。

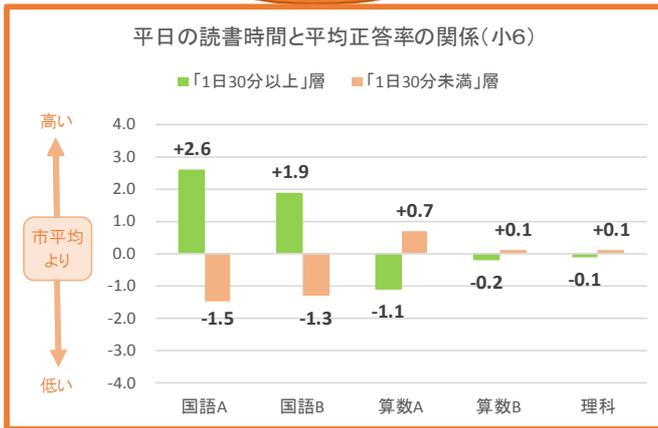
家庭学習



平日1日「1時間以上」学習する層の平均正答率が全体的に市平均より2ポイント以上高く、逆に「1時間未満」しか学習しない層では3.5ポイント以上低い。

(※学習塾等での学習時間を含む。)

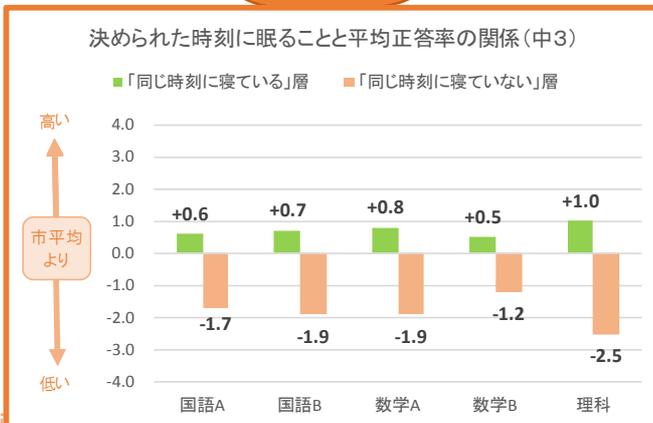
## 読書



平日「1日30分以上」読書する層の平均正答率は、国語が市平均より1.5ポイント以上高く、逆に「1日30分未満」しか読書しない層では国語が1ポイント以上低い。

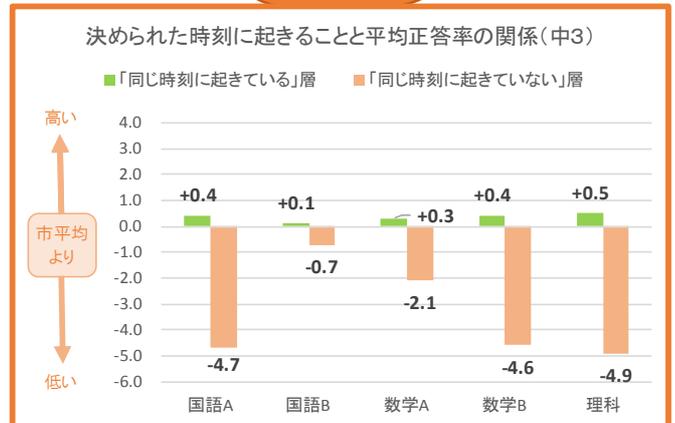
## ②中学校3年生

### 就寝時間



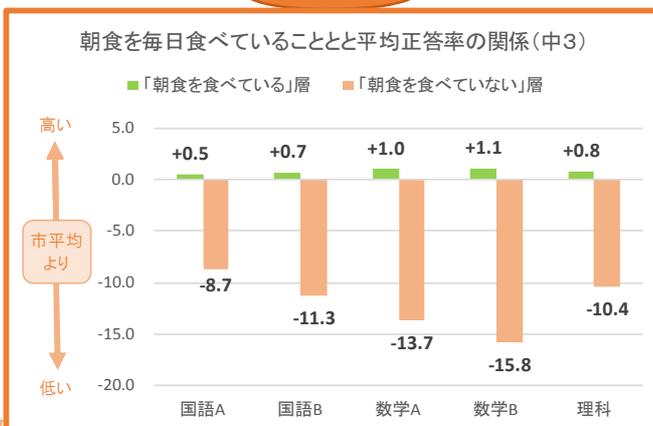
「同じ時刻に寝ている」層の平均正答率が全体的に市平均より0.5ポイント以上高く、逆に「同じ時刻に寝ていない」層では1ポイント以上低い。

### 起床時間



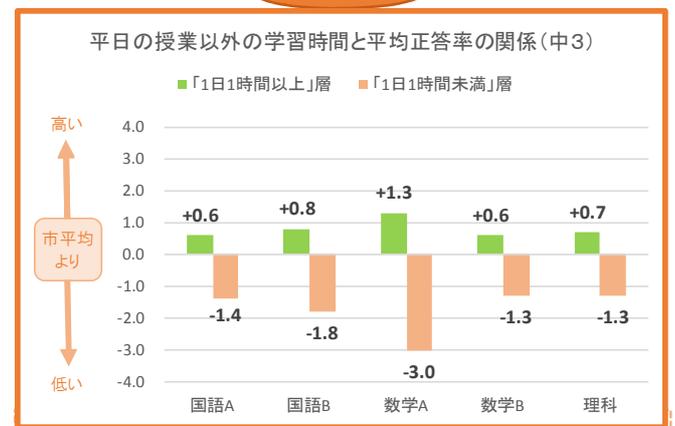
「同じ時刻に起きている」層の平均正答率が全体的に市平均より0~0.5ポイントほど高く、逆に「同じ時刻に起きていない」層では0.5~5ポイントほど低い。

### 朝ごはん



「朝食を毎日食べている」層の平均正答率が全体的に市平均より0.5ポイント以上高く、逆に「朝食を毎日食べていない」層では全体的に8.5~16ポイントほど低い。

### 家庭学習

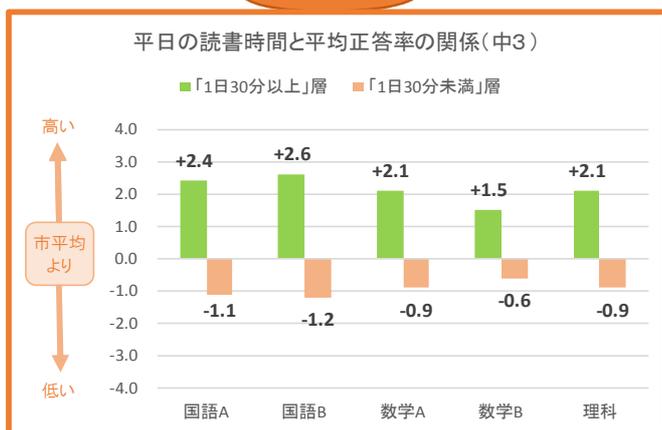


平日1日「1時間以上」学習する層の平均正答率は市平均より0.5~1.5ポイントほど高く、逆に「1時間未満」しか学習しない層では1ポイント以上低い。

(※学習塾等での学習時間を含む。)

(次ページへ続く)

## 読書



平日「1日30分以上」読書する層の平均正答率は全体的に市平均より1.5ポイント以上高く、逆に「1日30分未満」しか読書しない層では0.5ポイント以上低い。

### (4) 児童・生徒質問紙及び学校質問紙調査の主な回答結果データ

#### ①児童・生徒質問紙

質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学年	恵庭市回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
<b>ア. 生活習慣に関する質問</b>								
7	朝食を毎日食べていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	<b>94.9%</b>	<b>94.5%</b>	0.4	<b>92.8%</b>	2.1
			中3	<b>92.9%</b>	<b>91.9%</b>	1.0	<b>90.8%</b>	2.1
8	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	<b>73.2%</b>	<b>77.0%</b>	-3.8	<b>77.0%</b>	-3.8
			中3	<b>72.6%</b>	<b>74.2%</b>	-1.6	<b>73.0%</b>	-0.4
9	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	<b>87.6%</b>	<b>88.8%</b>	-1.2	<b>88.1%</b>	-0.5
			中3	<b>91.3%</b>	<b>90.3%</b>	1.0	<b>90.0%</b>	1.3
<b>イ. 自分やまわりへの意識に関する質問</b>								
1	自分には、よいところがあると思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>81.6%</b>	<b>84.0%</b>	-2.4	<b>82.7%</b>	-1.1
			中3	<b>76.3%</b>	<b>78.8%</b>	-2.5	<b>78.2%</b>	-1.9
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>82.7%</b>	<b>85.3%</b>	-2.6	<b>83.4%</b>	-0.7
			中3	<b>80.8%</b>	<b>82.2%</b>	-1.4	<b>82.3%</b>	-1.5
3	将来の夢や目標を持っていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>82.7%</b>	<b>85.1%</b>	-2.4	<b>84.0%</b>	-1.3
			中3	<b>74.0%</b>	<b>72.4%</b>	1.6	<b>71.3%</b>	2.7
20	今住んでいる地域の行事に参加していますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>56.9%</b>	<b>62.7%</b>	-5.8	<b>55.9%</b>	1.0
			中3	<b>45.6%</b>	<b>45.6%</b>	0.0	<b>39.0%</b>	6.6
21	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>64.2%</b>	<b>63.8%</b>	0.4	<b>61.7%</b>	2.5
			中3	<b>85.4%</b>	<b>87.4%</b>	-2.0	<b>86.9%</b>	-1.5
22	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>51.2%</b>	<b>49.9%</b>	1.3	<b>47.5%</b>	3.7
			中3	<b>34.5%</b>	<b>38.7%</b>	-4.2	<b>37.1%</b>	-2.6
23	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	「参加したことがある」	小6	<b>50.6%</b>	<b>36.1%</b>	14.5	<b>33.2%</b>	17.4
			中3	<b>67.2%</b>	<b>51.8%</b>	15.4	<b>47.4%</b>	19.8
54	今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>81.2%</b>	<b>82.0%</b>	-0.8	<b>82.0%</b>	-0.8
			中3					

(次ページへ続く)

①児童・生徒質問紙（続き）

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
<b>ウ. 家庭学習に関する質問</b>								
10	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	67.9%	67.6%	0.3	67.6%	0.3
			中3	52.1%	52.1%	0.0	52.6%	-0.5
12	家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	96.3%	89.9%	6.4	92.9%	3.4
			中3	89.8%	86.8%	3.0	88.4%	1.4
14	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	1時間以上している	小6	62.7%	66.2%	-3.5	57.1%	5.6
			中3	68.1%	70.6%	-2.5	64.7%	3.4
<b>エ. 学校での学習に関する質問</b>								
27	算数/数学の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	59.9%	64.0%	-4.1	61.9%	-2.0
			中3	58.2%	53.9%	4.3	50.0%	8.2
29	算数/数学の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	82.0%	83.4%	-1.4	81.7%	0.3
			中3	72.6%	71.0%	1.6	68.8%	3.8
32	算数/数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	63.2%	64.4%	-1.2	60.6%	2.6
			中3	37.3%	38.7%	-1.4	35.4%	1.9
33	算数/数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	91.0%	90.3%	0.7	89.7%	1.3
			中3	78.7%	72.9%	5.8	71.0%	7.7
37	今回の算数/数学の記述式問題について、どのように解答しましたか/それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか	「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	小6	69.3%	70.6%	-1.3	68.5%	0.8
			中3	56.2%	55.5%	0.7	51.2%	5.0
38	理科の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	86.3%	83.5%	2.8	86.8%	-0.5
			中3	75.7%	62.9%	12.8	65.9%	9.8
40	理科の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	91.9%	89.4%	2.5	91.7%	0.2
			中3	77.8%	70.0%	7.8	72.4%	5.4
42	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	57.4%	64.7%	-7.3	61.6%	-4.2
			中3	49.9%	45.4%	4.5	43.8%	6.1
43	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	37.2%	39.9%	-2.7	38.1%	-0.9
			中3	61.9%	55.7%	6.2	54.8%	7.1
46	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか	月1回以上行っている	小6	92.9%	89.1%	3.8	89.2%	3.7
			中3	96.5%	87.1%	9.4	92.5%	4.0
51	今回の理科の記述式問題について、どのように解答しましたか/最後まで解答を書こうと努力しましたか	「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	小6	78.3%	77.3%	1.0	77.3%	1.0
			中3	69.0%	62.8%	6.2	62.1%	6.9
52	5年生まで/1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	小6	74.4%	76.7%	-2.3	75.5%	-1.1
			中3	73.1%	73.8%	-0.7	71.7%	1.4
53	5年生/1、2年生のときまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	55.3%	61.0%	-5.7	59.3%	-4.0
			中3	48.7%	53.8%	-5.1	52.2%	-3.5
54	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	79.2%	77.7%	1.5	77.3%	1.9
			中3	77.5%	76.3%	1.2	75.0%	2.5
<b>オ. 読書に関する質問</b>								
15	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	1日当たり30分以上している	小6	38.2%	41.1%	-2.9	38.7%	-0.5
			中3	32.5%	30.9%	1.6	32.8%	-0.3
			小6	21.4%	18.7%	2.7	22.1%	-0.7
			中3	27.6%	32.9%	-5.3	30.7%	-3.1
25	新聞を読んでいますか	週1回以上読んでいる	小6	21.0%	19.9%	1.1	21.9%	-0.9
			中3	14.2%	13.9%	0.3	15.7%	-1.5
			小6	61.6%	60.9%	0.7	58.2%	3.4
			中3	69.5%	70.4%	-0.9	67.7%	1.8

②学校質問紙

質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学校	恵庭市回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
<b>A. 児童・生徒の自分やまわりへの意識に関する質問</b>								
23	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	75.0%	83.3%	-8.3	86.6%	-11.6
22			中	80.0%	98.6%	-18.6	98.7%	-18.7
59	職場見学や職場体験活動を行っていますか	「行っている」	小	75.0%	47.5%	27.5	58.9%	16.1
56			中	100.0%	98.9%	1.1	99.0%	1.0
<b>B. 児童・生徒の家庭学習に関する質問</b>								
63	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童／生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	97.2%	2.8	98.9%	1.1
60			中	100.0%	91.9%	8.1	95.8%	4.2
66	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童／生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	93.3%	6.7	96.4%	3.6
63			中	80.0%	90.2%	-10.2	94.6%	-14.6
<b>C. 児童・生徒の学校での学習に関する質問</b>								
35	調査対象学年の児童／生徒に対して、算数／数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	年間授業のおおよそ1/4以上行った	小	75.0%	46.9%	28.1	57.1%	17.9
34			中	80.0%	38.1%	41.9	55.1%	24.9
36	調査対象学年の児童／生徒に対して、算数の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	年間授業のおおよそ1/4以上行った	小	62.5%	37.5%	25.0	49.8%	12.7
35			中	60.0%	32.0%	28.0	48.7%	11.3
39	調査対象学年の児童／生徒に対する算数／数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	75.0%	78.0%	-3.0	83.5%	-8.5
38			中	80.0%	72.1%	7.9	79.6%	0.4
43	調査対象学年の児童／生徒に対する理科の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	50.0%	66.5%	-16.5	70.2%	-20.2
41			中	100.0%	85.2%	14.8	90.2%	9.8
45	調査対象学年の児童／生徒に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	62.5%	85.7%	-23.2	88.7%	-26.2
43			中	100.0%	90.7%	9.3	93.3%	6.7
65	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしての宿題を与えましたか(国語／算数共通)	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	62.5%	84.4%	-21.9	86.9%	-24.4
62			中	60.0%	73.7%	-13.7	80.1%	-20.1
<b>D. 学校間や地域の連携に関する質問</b>								
20	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	「よくしている」「どちらかといえば、している」	小	100.0%	90.6%	9.4	94.7%	5.3
19			中	100.0%	85.2%	14.8	92.2%	7.8
21	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	「よくしている」「どちらかといえば、している」	小	87.5%	63.1%	24.4	60.1%	27.4
20			中	80.0%	69.2%	10.8	70.9%	9.1
34	平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	63.3%	36.7	71.4%	28.6
33			中	80.0%	64.0%	16.0	75.6%	4.4
77	前年度までに、近隣等の中学校／小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	75.0%	69.5%	5.5	61.1%	13.9
74			中	80.0%	76.5%	3.5	70.4%	9.6
<b>E. 児童・生徒の読書に関する質問</b>								
55	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	62.5%	49.0%	13.5	60.5%	2.0
53			中	60.0%	25.9%	34.1	29.0%	31.0



## 4 総評

- ① 学力調査の結果、恵庭市の小学校6年生の平均正答率は、算数B以外の教科において全国平均とほぼ同程度ですが、算数Bが全国平均をやや下回りました。恵庭市の中学校3年生の平均正答率も、全国平均とほぼ同程度ですが、理科は全国平均をやや上回りました。※前回（平成27年度）では全国平均とほぼ同程度でした。
- ② 恵庭市の中学校3年生の「教科に関する調査」では、「数学の勉強が好き」「数学の授業の内容が良くわかる」と答えた割合は全国より高く、「全ての記述式問題を解くのに最後まで努力した」と答えた割合は、数学、理科ともに全国より高い傾向にあります。与えられた学習内容や問題に取り組もうという「意欲」が全国よりも高い傾向にあります。
- ③ また、全国の下位4分の1層の小学校6年生・中学校3年生の割合と、同じ正答数の範囲に含まれる恵庭市の小学校6年生・中学校3年生の割合を比べたポイント差については、次のようになります。

恵庭市の割合 と全国の割合 のポイント差	小学校6年生					中学校3年生				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
(前回) H29 (理科はH27)	-1.5	1.9	-1.0	2.5	-0.4	0.9	0.9	0.6	0.5	-3.6
H30	<b>-2.1</b>	<b>-0.1</b>	<b>-2.7</b>	<b>0.1</b>	<b>-1.7</b>	<b>0.8</b>	<b>-1.2</b>	<b>1.1</b>	<b>-1.3</b>	<b>-4.9</b>

※全国とのポイント差が小さくなる（最終的にはマイナスになる）ことが、学力の底上げの目安になります。昨年度に比べて、下位4分の1層の割合が減少していることから、着実に学力の底上げがなされ、学力向上に向けた各校の取組の成果があらわれているといえます。

- ④ 恵庭市の小学校6年生・中学校3年生の生活習慣については、朝食を食べている割合は全国より高く、寝る時間が全国より不規則だったり遅くなったりする傾向がみられます。このことは日々の家庭学習時間が全国より短い傾向との関連があります。学校において学習内容の定着を目指した家庭学習の指導が行われ、生徒が着実に実践していますが、平日の習慣として十分な時間を家庭学習に充てられていないことに課題が残されています。
- ⑤ 恵庭市PTA連合会では、毎月第3日曜日を「市P連の日」と定めて、「**ノーデジタル・メディア・チャレンジ**」に取り組んでいます。日時を限定して、「テレビを消す」「携帯電話、スマートフォン、ゲーム機を使わない」「インターネットの利用、メールのやりとりをしない」などのルールを、家族みんなで決めて実行しようという呼びかけを行っています。市教委としても、道教委が示している「（デジタルメディアを）全て合わせて2時間以内」を目安に、「**節度ある利用**」を呼びかけていきたいと考えています。